県営低コスト化水田農業大画ほ場整備事業
(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(1)

富山市水橋

清水堂A遺跡

清水堂C遺跡

清水堂B遺跡

清水堂D遺跡

清水堂小深田遺跡

清水堂宗平邸遺跡

1996年3月

富山市教育委員会

富山市水橋

清水堂A遺跡

清水堂C遺跡

清水堂B遺跡

清水堂D遺跡

清水堂小深田遺跡

清水堂宗平邸遺跡

1996年3月

富山市教育委員会

例　　言

1. 本書は、県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）に伴う、富山市清水堂Ａ遺跡、清水堂Ｃ遺跡、清水堂Ｄ遺跡、清水堂宗平邸の発掘調査、清水堂Ｂ遺跡、清水堂Ｄ遺跡、清水堂小深田遺跡の試掘調査概要である。
2. 調査は、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて富山市教育委員会が実施した。調査費用の地元農家負担分については富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
3. 調査の期間、発掘面積、担当者は次のとおりである。

清水堂Ａ遺跡	平成７年５月８日～平成７年７月21日	発掘	200㎡	鹿島、小林
清水堂Ｃ遺跡	平成７年５月８日～平成７年７月21日	発掘	250㎡	鹿島、小林
清水堂Ｂ遺跡	平成７年12月20日～平成８年１月29日	試掘	5,000㎡	鹿島
清水堂Ｄ遺跡	平成７年12月20日～平成８年１月20日	試掘	4,000㎡ 発掘600㎡	鹿島
清水堂小深田遺跡	平成７年12月23日～平成８年１月22日	試掘	4,000㎡	鹿島
清水堂宗平邸遺跡	平成７年12月23日～平成８年１月20日	発掘	50㎡	鹿島

4. 調査にあたり富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターの指導・助言を受けた。
5. 調査は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員鹿島昌也、同学芸員小林高範が担当した。
6. 本書の編集・執筆は鹿島が担当した。
7. 調査の実施から報告書作成までの間に次の各氏から有益な助言と協力を頂いた。記して謝意を表したい。
安達志津・上野　章・島田修一・宮田進一・山本正敏（五十音順、敬称略）
8. 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。
(1)方位は真北、水平基準は海抜高である。
(2)遺構の表記は次の記号を用いた。
ＳＢ：掘立柱建物、ＳＤ：溝、ＳＫ：土坑、Ｐ：柱穴状ピット、ＳＥ：井戸、ＳＸ：その他の不明遺構
(3)挿図の遺物縮尺は1/2·1/3·1/4を原則とした。写真図版の遺物縮尺は1/2·1/3を原則とした。

目　　次

Ⅰ遺跡の位置と環境……1
Ⅱ調査にいたる経緯……3
Ⅲ調査の概要……4
１．清水堂Ａ遺跡……4
(1)調査の経過と層序……4
(2)遺構と遺物……4
２．清水堂Ｃ遺跡……4
(1)調査の経過と層序……4
(2)発掘調査の概要……4
(3)遺構と遺物……6
(4)小結……14
３．清水堂Ｂ遺跡……14
(1)試掘調査の概要……14
(2)遺構と遺物……14
５．清水堂小深田遺跡……16
(1)試掘調査の概要……16
(2)遺構と遺物……17
６．清水堂宗平邸遺跡……17
(1)調査の経過……17
(2)発掘調査の概要……17
(3)小結……19
７．清水堂Ｄ遺跡……19
(1)試掘調査の概要……19
(2)遺構と遺物……19
(3)発掘調査の経緯……19
(4)発掘調査の概要……21
(5)円形土坑について……21
写真・図版……26

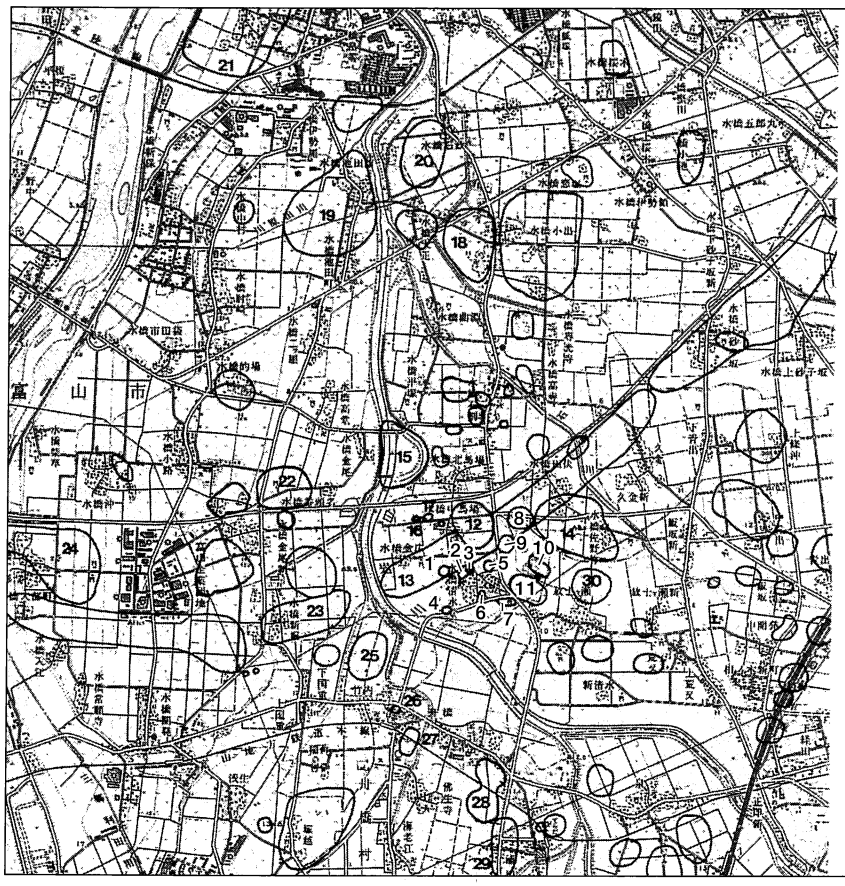
Ⅰ．遺跡の位置と環境

清水堂遺跡は、富山市の東北部の水橋清水堂地区にあり、東は上市町、南は舟橋村と接する位置にある。清水堂地区は西に流れる常願寺川の扇状地扇端部の湧水地帯にあたり、大辻山に端を発する白岩川が、明治38年に改修されるまでは曲折して流れおり、現在の自然堤防や河岸段丘などの微地形を形成し、この地区もその白岩川の右岸に位置し、現在は集落の外れを流れている川も改修前は集落の傍まで来ていた。このため川の後に広がる平野部では早くから豊富な水資源を利用した水田耕作が行われ、河川を利用した水運も発達していた。標高は約９ｍを測る。

周辺には白岩川の両岸をはじめ、上市川の河岸段丘との間に形成された微高地上の平野部には、縄文時代早期から近世に至る多くの遺跡が存在する。清水堂に集落が営まれる弥生時代、特に後期から古墳時代初期、周辺には上市町江上Ａ遺跡のような大集落や、滑川市魚躬遺跡、富山市金尾遺跡等が見られる。

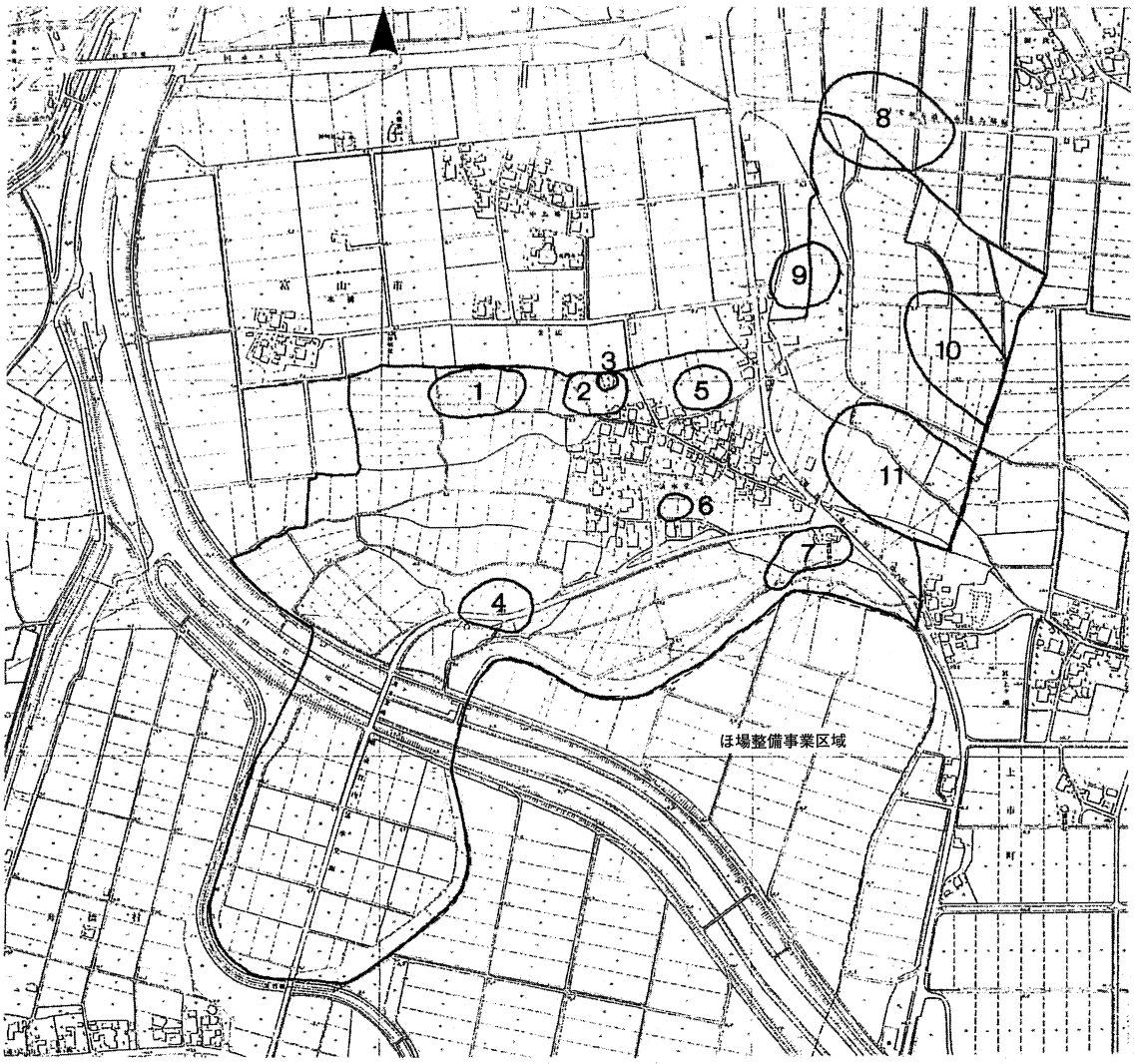
古墳時代になると白岩川本・支流域には「白岩川流域古墳群」と呼ばれるように多くの古墳が造られる。上流部の丘陵尾根上には柿沢古墳群があり、中・下流域の平野部に至ると立山町に径46ｍの葺石・周濠・周庭帯をもつ稚児塚古墳があり、舟橋村には竹内天神堂古墳（前方後方墳）、塚越古墳（円墳）があり、富山市に至ると清水堂・宮塚・若子塚古墳が造られる。集落では古墳時代の前期にかけては弥生時代後期からの存続が窺えるが、中期になるとその中心が他地域へ移動したのか、この地域に見ることが出来なくなる。

古代以降は立山町を中心に立山窯跡群が造られる。古代から中世にかけては須恵器窯が盛行し、中世末に開窯された越中瀬戸焼の窯が近世には一大窯業地として栄え、清水堂もその消費地としての役割を担っていたものと思われる。



1 清水堂A遺跡
2 清水堂B遺跡
3 清水堂古墳
4 清水堂C遺跡
5 清水堂小深田遺跡
6 清水堂宗平邸遺跡
7 清水堂D遺跡
8 水橋田伏南遺跡
9 水橋金広遺跡
10 清水堂F遺跡
11 清水堂E遺跡
12 水橋中馬場遺跡
13 HS－07遺跡
14 田伏・佐野竹遺跡
15 金尾遺跡
16 宮塚古墳
17 若王子塚古墳
18 小出城跡
19 水橋池田館遺跡
20 水橋石政遺跡
21 水橋荒町遺跡
22 金尾新遺跡
23 新堀遺跡
24 水橋二杉遺跡
25 竹内遺跡
26 竹内天神堂古墳
27 仏生寺城跡
28 小平遺跡
29 浦田遺跡
30 放土ケ瀬北遺跡

第１図　水橋清水堂地内所在遺跡と周辺の遺跡（1：50,000）



番号	遺　跡　名	面　積	番号	遺　跡　名	面　積
1	清水堂A遺跡	6,500㎡	7	清水堂D遺跡	4,000㎡
2	清水堂B遺跡	5,000㎡	8	水橋田伏南遺跡	5,700㎡
3	清水堂古墳	工事除外	9	水橋金広遺跡	3,800㎡
4	清水堂C遺跡	5,500㎡	10	清水堂F遺跡	16,000㎡
5	清水堂小深田遺跡	4,000㎡	11	清水堂E遺跡	29,000㎡
6	清水堂宗平邸遺跡	1,100㎡	計		80,600㎡

第１表　ほ場整備事業地内所在遺跡

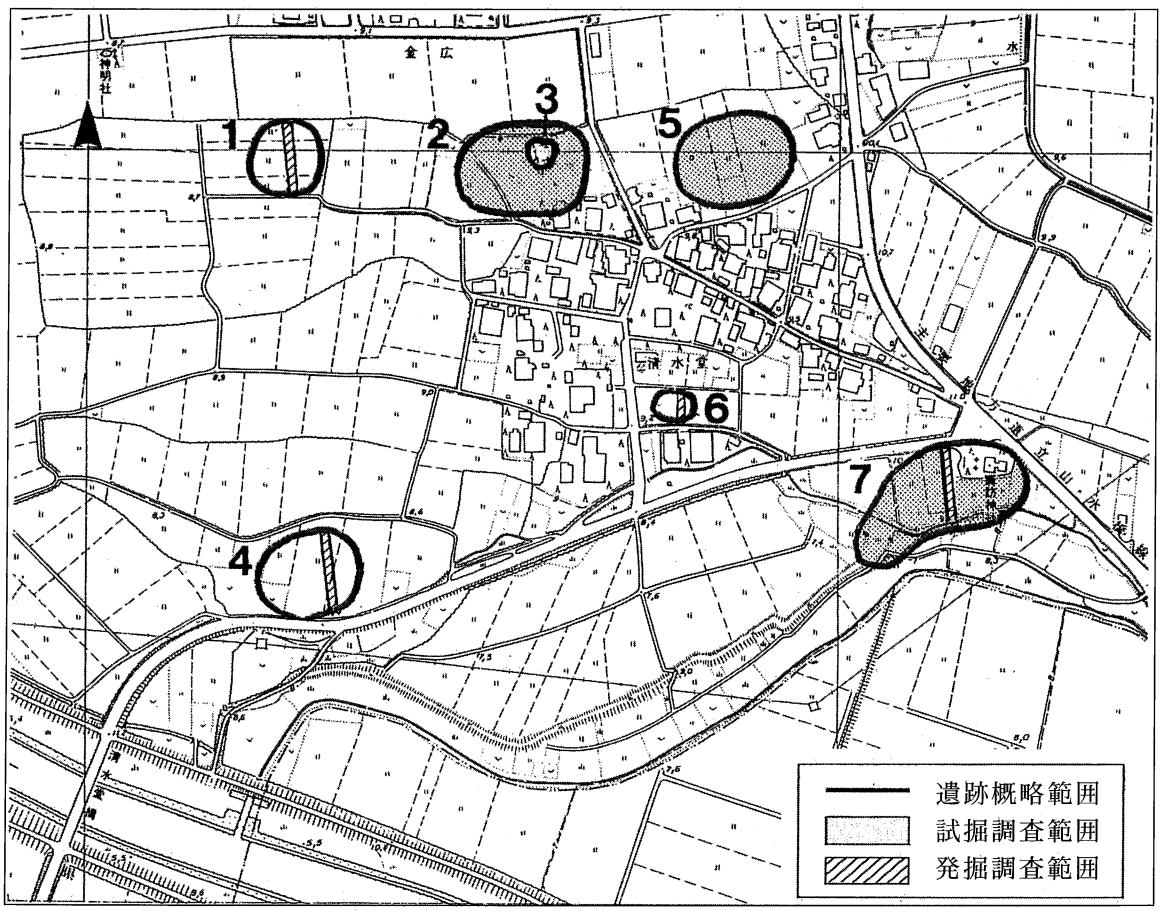
Ⅱ．調査にいたる経緯

平成４年度に、富山市水橋清水堂周辺の約36haの水田を対象として、県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）の計画が立案された。事業地内には既に周知の遺跡として、５遺跡（清水堂Ａ遺跡、清水堂Ｂ遺跡、清水堂Ｃ遺跡、清水堂Ｄ遺跡、清水堂古墳）の所在を確認していた。ただし、一部に未調査地が残っていたため、平成５年１月に富山市教育委員会が詳細な分布調査を実施した。その結果、６遺跡（清水堂Ｅ遺跡、清水堂Ｆ遺跡、清水堂小深田遺跡、清水堂宗平邸遺跡、水橋田伏南遺跡、水橋金広遺跡）を新たに発見し、事業地内で合わせて11遺跡の所在が明らかとなった（第２図、第１表）。

分布調査の結果を踏まえて、富山県埋蔵文化財センター・富山県教育委員会・富山農地林務事務所など関係機関の間で協議を重ね、事業が開始される平成６年度から富山市教育委員会が主体となって、事前に遺跡の試掘調査、発掘調査を進めていくこととなった。

平成６年度は、平成６年12月に清水堂Ａ遺跡と清水堂Ｃ遺跡、平成７年３月に清水堂宗平邸遺跡を対象として試掘調査を実施し、それぞれ遺跡の所在を確認した。

平成７年度は、平成６年度に所在が確認された遺跡の中で、農道敷設工事にかかる箇所について発掘調査を実施した。あわせて平成７年12月から清水堂Ｂ遺跡、清水堂Ｄ遺跡、清水堂小深田遺跡の試掘調査及び清水堂Ｄ遺跡の発掘調査を実施した。



第２図　遺跡調査位置図（1：5,000）
1.清水堂A遺跡　2.清水堂B遺跡　3.清水堂古墳　4.清水堂C遺跡
5.清水堂小深田遺跡　6.清水堂宗平邸遺跡　7.清水堂D遺跡

Ⅲ．調査の概要

1.　清水堂Ａ遺跡

(1)発掘調査の経過と層序

平成６年度の試掘調査の結果、1,500㎡の範囲に遺構の検出こそ無かったものの、厚さ約20㎝の遺物包含層を確認し、土師器等古代を中心とする遺物の散布状況を確認していた。

平成７年度は試掘結果を踏まえ、遺物が散布する範囲内を南北に縦断する排水路敷設部について幅４ｍ、延長50ｍの調査区を設定し、重機による表土排土後、作業員による遺物包含層発掘、続いて遺構確認を行った。

基本層序は、第１層灰色土（水田耕作土）、第２層灰褐色土、第３層暗灰褐色弱粘質土、第４層暗黄灰色粘質土となり、第５層灰色粘土の地山面に至る。第２層から第４層までは、弥生時代から中世までの遺物を含む遺物包含層である。

(2)遺構と遺物

試掘調査の際、遺構は確認されておらず、今回の発掘調査においても調査区北端に幅40～50㎝、深さ４㎝の浅い溝１本と穴１（深さ10㎝）が検出されるに留まった。遺物は遺構内からは検出されなかった。

今回の調査で出土した遺物は、全て遺物包含層中からのもので、弥生時代から中世にかけてのものが見られる。

１は扁平片刃石斧である。刃先全体に光沢が観察され、先端部の一部を残して使用による微細剥離が見られる。弥生時代中期のものである。２は須恵器の壺である。３は須恵器の有台杯である。高台端部はナデによる丸みを帯びる。４は須恵器の無台杯である。口縁部は直線的にのびる。５は珠洲焼の壺である。器面を櫛目波状文で加飾し、肩に横位の環状把手を付す。Ⅱ期に位置する。６～９は珠洲焼の片口鉢類の口縁部である。６・８に卸し目が観察される。口縁形態は６・７が水平口縁をなし、８は口縁端部をやや外側に肥厚させる。９は口縁内端に面を取り、そこに櫛目波状文帯をめぐらす。６～８は吉岡編年（吉岡1994）Ⅲ～Ⅳ期、９はⅤ期に属するものと思われる。10は青磁碗の底部片で高台縁を面取りする。11・12は瀬戸焼のⅢで、15世紀頃のものと想定される。

(3)小結

今回の調査区内からは、狭長な調査区の為、遺構の検出は僅かであったが、包含層より中世を主体とする遺物の出土を見た。出土した遺物から遺跡は14～15世紀頃に営まれた集落の縁辺部であると考える。

2.　清水堂Ｃ遺跡

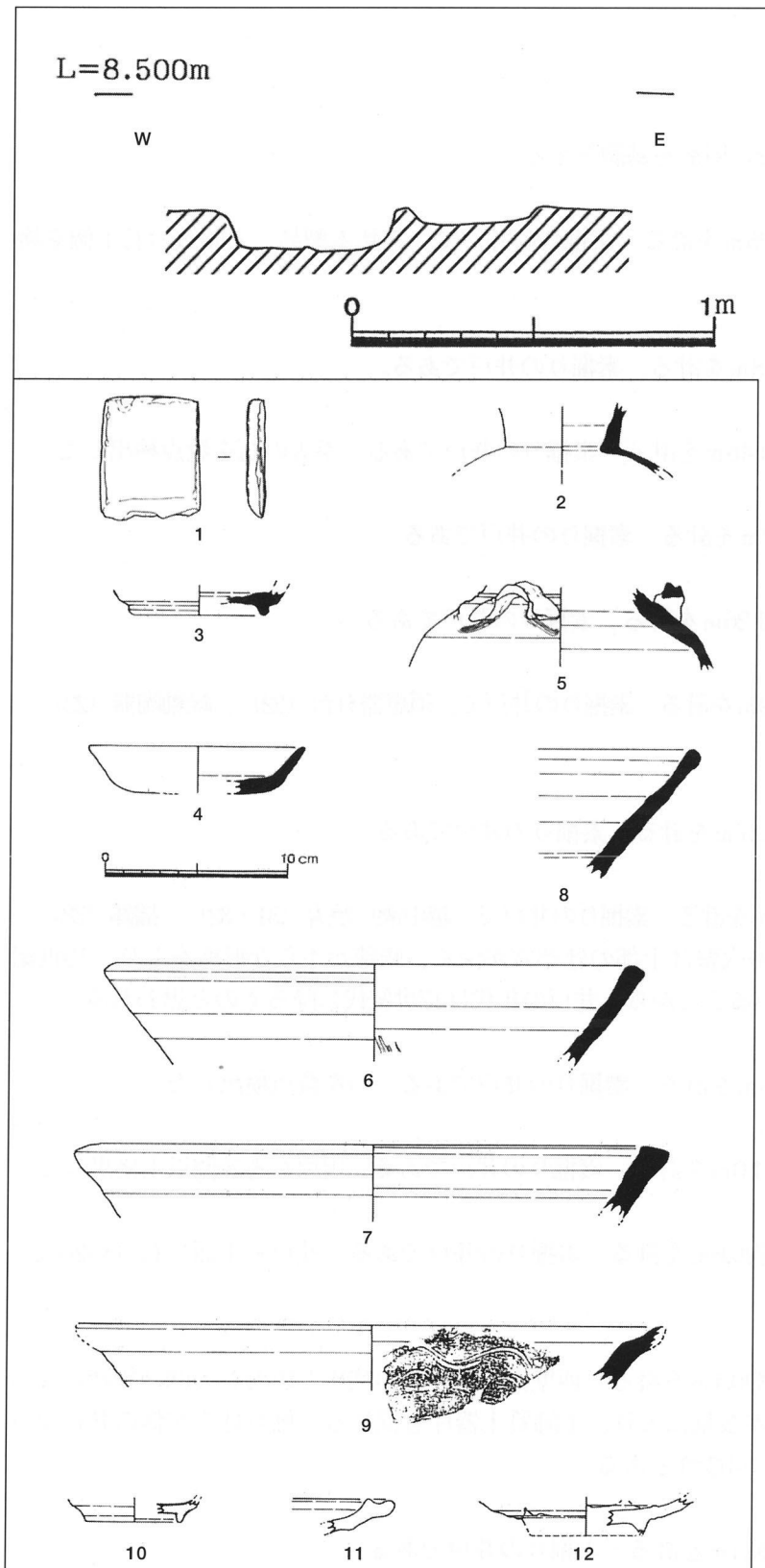
(1)発掘調査の経過と層序

平成６年度の試掘調査の結果、2,000㎡の範囲に中世（鎌倉時代）を主体とした遺跡の所在を確認した。これを踏まえ、富山農地林務事務所と協議を行い、排水路敷設予定地にかかる250㎡については発掘調査による保護措置を要することとなった為、平成７年５月から重機による表土排出後、地元清水堂地区を中心とする発掘作業員による遺物包含層発掘、続いて遺構確認を行った。

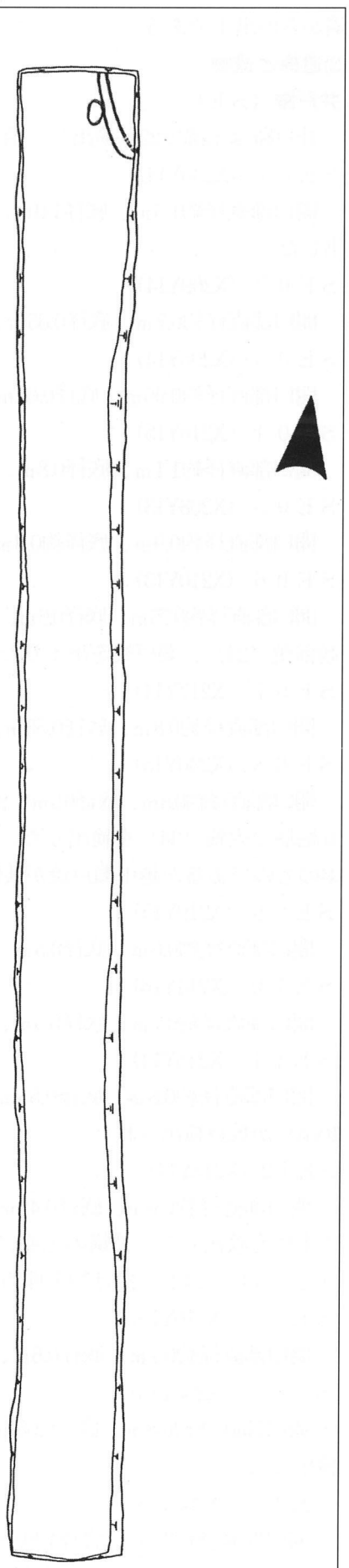
基本層序については、表土から地山まで70㎝を計り、第１層灰色土（水田耕作土）、第２層灰色シルト土（旧耕作土、厚さ約30㎝）、第３層暗褐灰色シルト土（遺物包含層、厚さ約20㎝）、第４層黄灰色の地山土に至る。第４層の地山面を掘り込んで黒灰色あるいは暗灰色の覆土を呈する遺構面が存在する。

(2)発掘調査の概要

発掘調査は遺跡範囲のほぼ中央を南北に延びる調査区250㎡を設定して行った。検出された遺構は、溝跡７条、井戸跡22基、土坑６基、小穴５基がある。出土遺物は、弥生土器、須恵器、緑釉陶器、土師質土器、越中瀬戸焼、越前焼、珠洲焼、瓦質陶器、近世陶磁器、青磁、動物骨片、鉄鏡、五輪塔火輪、漆塗木製品（椀）、箸状木製品、木簡「一」、各種木製品、種子等植物遺体、炭片等が出土している。多くの遺物は井戸跡、



第３図　清水堂A遺跡出土遺物実測図（1／3）



第４図　清水堂A遺跡遺構図（1／200）

溝からの出土である。

(3)遺構と遺物

井戸跡（ＳＥ）

井戸跡は全部で22基検出し、殆ど平面形は円形を基調とする。

ＳＥ０１（X236Y14）

開口部直径約1.3ｍ、底径1.0ｍ、深さ1.25ｍを計る。素掘りの井戸で、箸状木製品、人頭大の石１個を検出した。

ＳＥ０２（X209Y14）

開口部直径約0.7ｍ、底径0.65ｍ、深さ0.8ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ０３（X205Y14）

開口部直径約0.95ｍ、底径0.65ｍ、深さ1.46ｍを計る。素掘りの井戸である。拳大の石を数点検出した。

ＳＥ０４（X216Y15）

開口部直径約1.1ｍ、底径0.8ｍ、深さ1.2ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ０５（X208Y13）

開口部直径約0.9ｍ、底径約0.8ｍ、深さ1.26ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ０６（X210Y13）

開口部直径約0.75ｍ、底径0.6ｍ、深さ1.39ｍを計る。素掘りの井戸で、須恵器有台（22）、緑釉陶器（23）、越前焼（21）、瀬戸焼を出土した。

ＳＥ０７（X217Y14）

開口部直径約0.8ｍ、底径0.55ｍ、深さ1.27ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ０８（X230Y15）

開口部直径約0.8ｍ、底径0.5ｍ、深さ0.95ｍを計る。素掘りの井戸で、越中瀬戸焼丸（31・32）、擂鉢（33）、五輪塔の火輪（34）を検出した。五輪塔の火輪は上部のほぞ穴が深く、底部が平らな形態をとり、15世紀頃のものであるが越中瀬戸焼が共伴していることから、井戸の年代は17世紀代に降るものと思われる。

ＳＥ０９（X219Y15）

開口部直径約0.6ｍ、底径0.5ｍ、深さ0.8ｍを計る。素掘りの井戸である。石を数点検出した。

ＳＥ１０（X214Y16）

開口部直径約0.7ｍ、底径0.5ｍ、深さ約1.0ｍを計る。素掘りの井戸である。川原石を20個以上検出した。

ＳＥ１１（X215Y14）

開口部直径約0.8ｍ、底径0.55ｍ、深さ約0.6ｍを計る。素掘りの井戸である。井戸の上面に石（約20㎝×10㎝）が数点検出された。

ＳＥ１２（X215Y14）

開口部直径約0.6ｍ、底径0.45ｍ、深さ約0.4ｍを計る。西壁面に井戸枠の残片と思われる曲げ物状になった木片を検出した。遺構の上面には小礫が多量に入り、土師質土器片も混じる。掘り込みが他の井戸より浅く、井戸ではなく曲げ物を埋めた土坑の可能性もある。

ＳＥ１３（X210Y15）

開口部直径約0.7ｍ、底径0.6ｍ、深さ約0.4ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ１４（X205Y13）

開口部直径約0.8ｍ、底径0.65ｍ、深さ約1.4ｍを計る。素掘りの井戸である。越中瀬戸焼の丸皿（24）を検出した。

ＳＥ１５（X233Y13）

開口部直径約0.7ｍ、底径約0.5ｍ、深さ約0.7ｍを計る。素掘りの井戸である。井戸内からは多量の箸状木製品が 出土し（第14図）、各種木製品も検出された（第13図）。土器は土師質の皿（35）や内面黒色の土

師器椀（26）の他に珠洲焼片、越前焼片も出土している。また、埋土を現地であるいは持ち帰り、水洗いしたところ多くの植物遺体が検出された。その多くは種子類で、柿、桃、ウリ科植物等がある。

ＳＥ１６（X238Y12）

開口部直径約0.95ｍ、底径約0.6ｍ、深さ約0.92ｍを計る。素掘りの井戸で、珠洲焼の擂鉢の底部片（30）を検出した。

ＳＥ１７（X240Y12）

開口部直径約0.7ｍ、底径約0.55ｍ、深さ約0.8ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ１８（X216Y14）

開口部直径約0.6ｍ、底径約0.4ｍ、深さ約0.7ｍを計る。素掘りの井戸でＳＥ０７とＳＥ２１に接する位置にある。

ＳＥ１９（X235Y13）

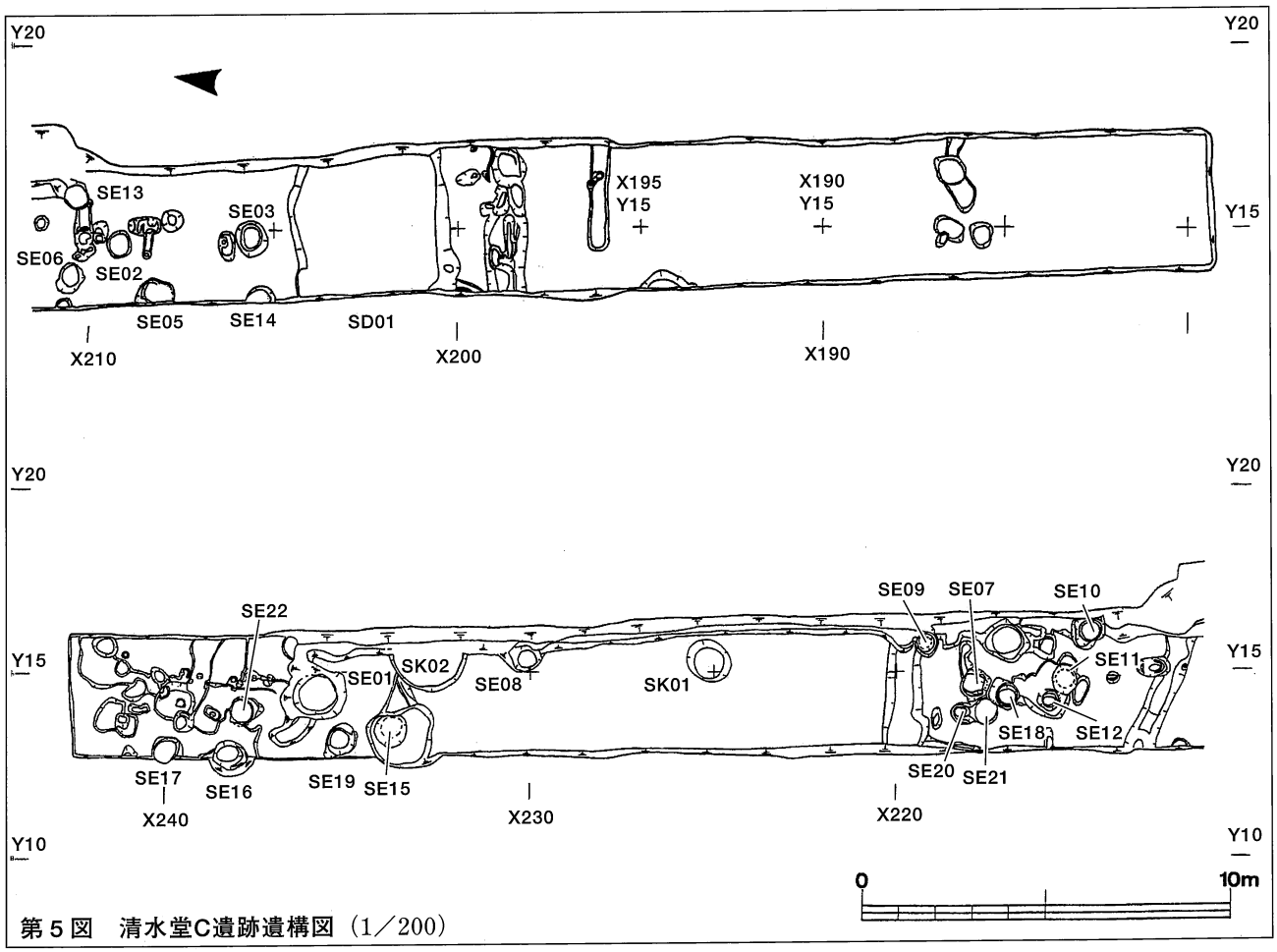
開口部直径約0.75ｍ、底径約0.5ｍ、深さ約1.05ｍを計る。素掘りの井戸である。

ＳＥ２０（X218Y13）

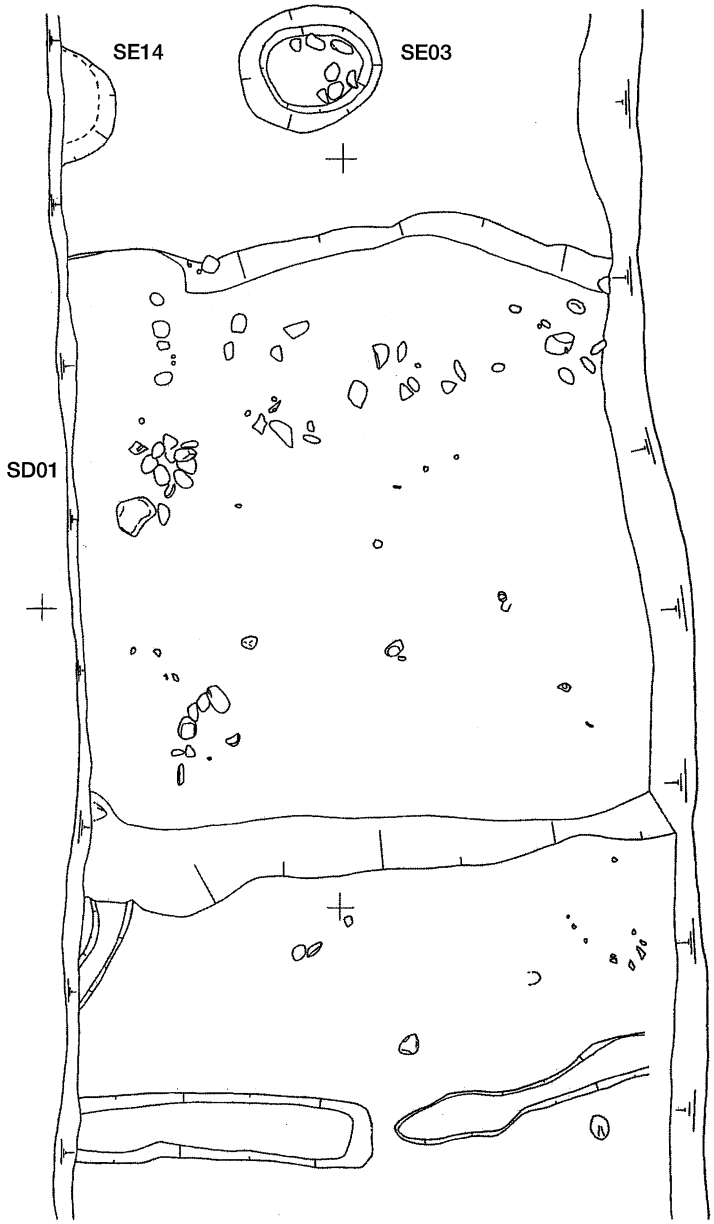
開口部直径約0.55ｍ、底径約0.35ｍ、深さ約1.05ｍを計る。素掘りの井戸でＳＥ２１と切り合って位置する。

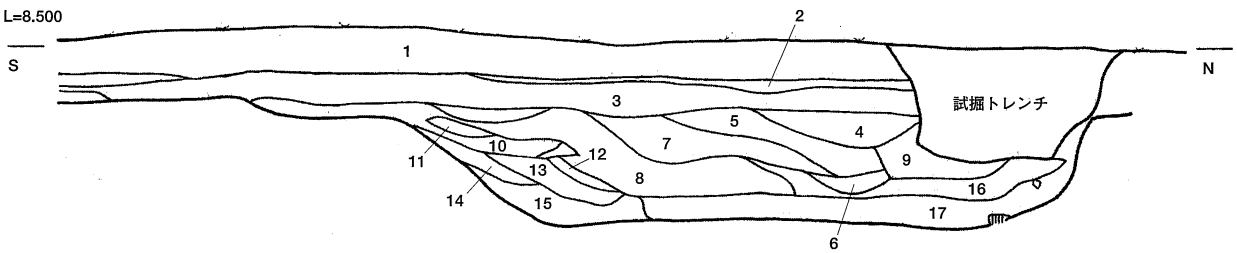
ＳＥ２１（X217Y13）

開口部直径約0.75ｍ、底径約0.6ｍ、深さ約1.01ｍを計る。素掘りの井戸で、越中瀬戸焼の丸皿(27･28･29)の他に鉄鏡（図版9）を検出した。



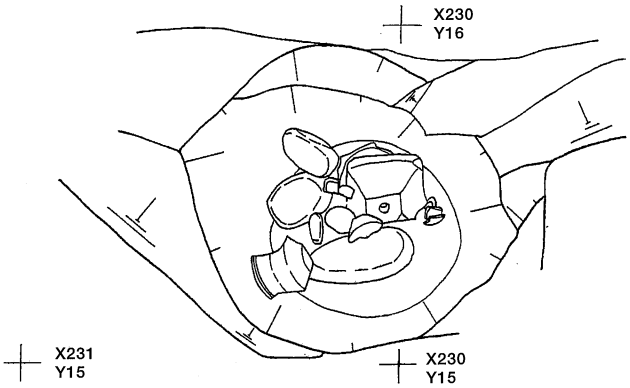
第５図　清水堂C遺跡遺構図（1／200）



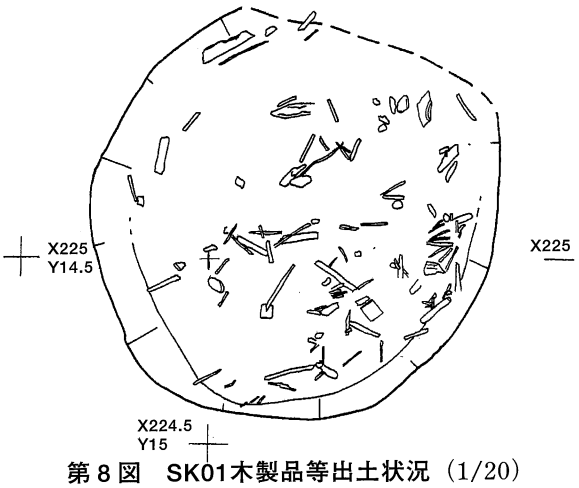


1 灰色シルト土(旧耕作土)
2 黄褐色土
3 暗褐灰色シルト土(遺物色含層)
4 暗褐色弱粘質土(黄色ブロック含む)
5 暗灰褐色土弱粘質土
6 暗青灰色砂質土
7 暗褐色シルト土
8 黄灰色色シルト
9 暗褐色シルト土
10 暗灰黄色シルト土
11 暗灰褐色シルト土
12 暗褐灰色シルト土
13 灰褐色弱粘質土
14 暗褐灰色シルト土
15 褐灰色粘質土(砂まじり)
16 暗灰色弱粘質土(黄灰色ブロック少量含む)
17 暗灰色弱粘質土
(植物質、炭などを含む)

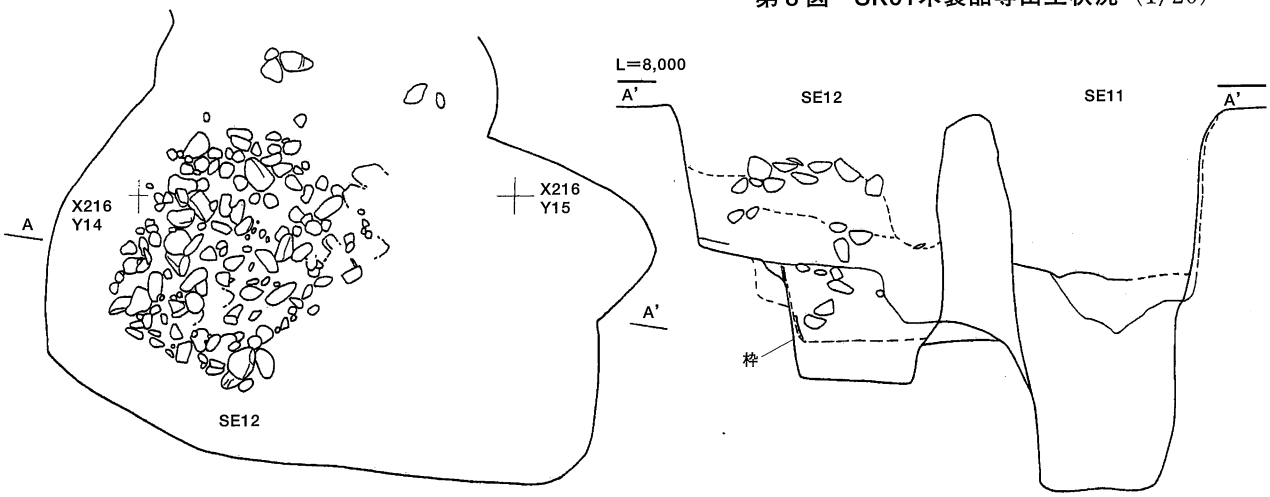
第6図　清水堂C遺跡SD 01遺物出土状況（1/100）及び西壁土層断面図（1／50）



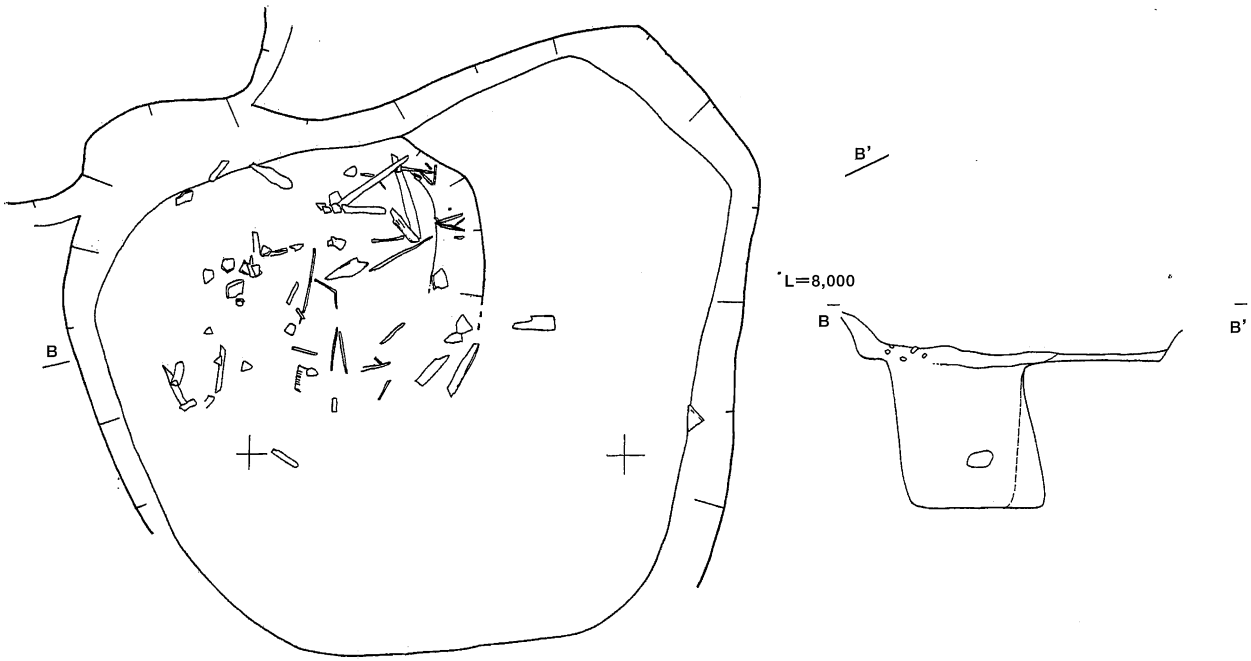
第７図　SE08遺物出土状況（1/20）



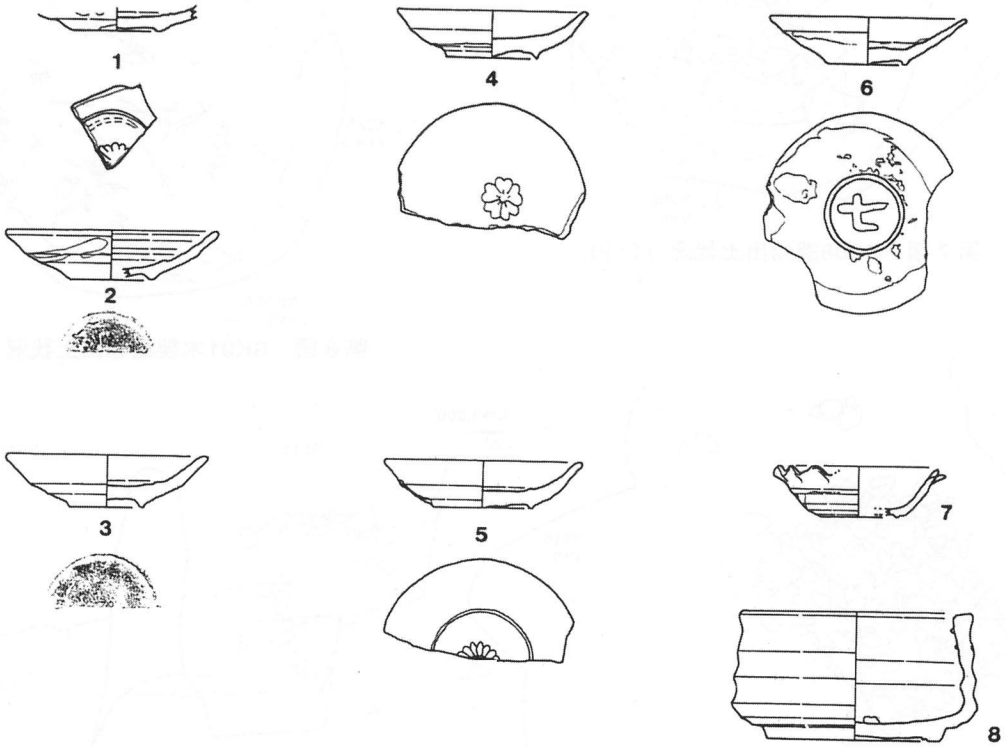
第８図　SK01木製品等出土状況（1/20）



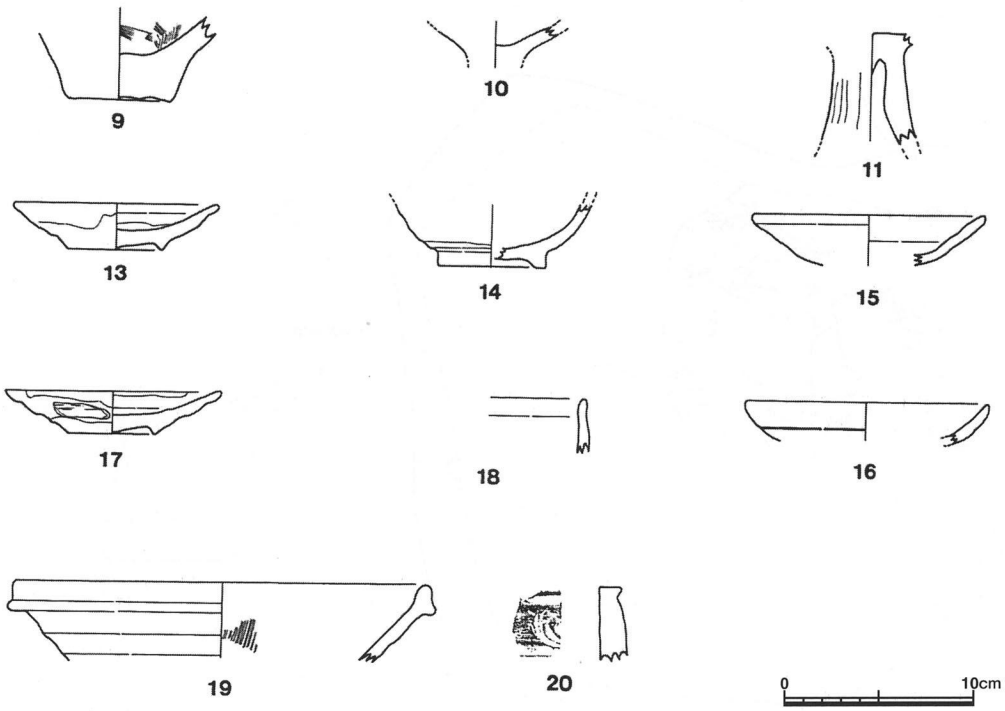
第９図　SE11及びSE12遺構平面図及び土層断面図（1/20）



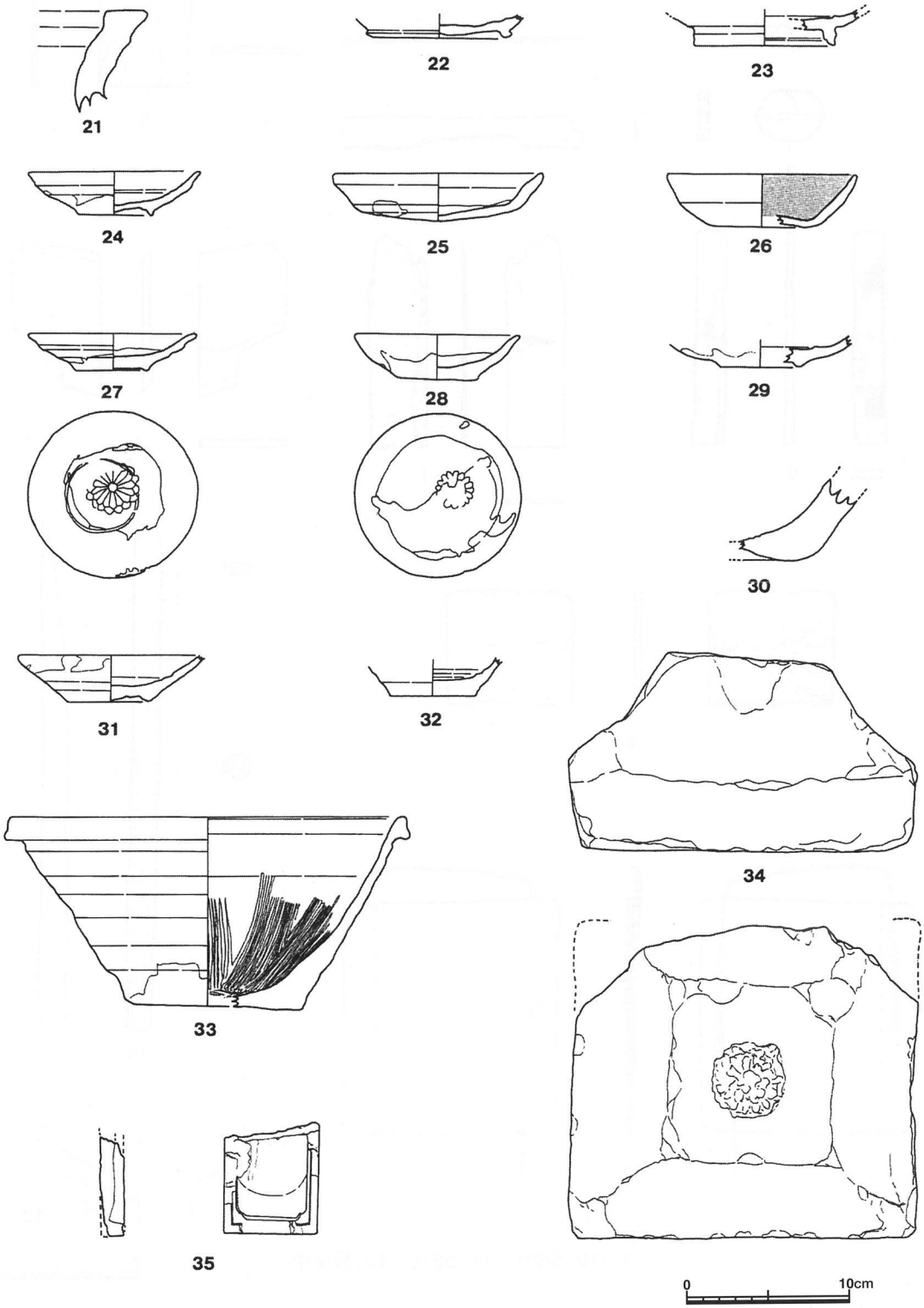
第10図　SE15上面遺物出土状況（1/20）及び土層断面図（1/40）



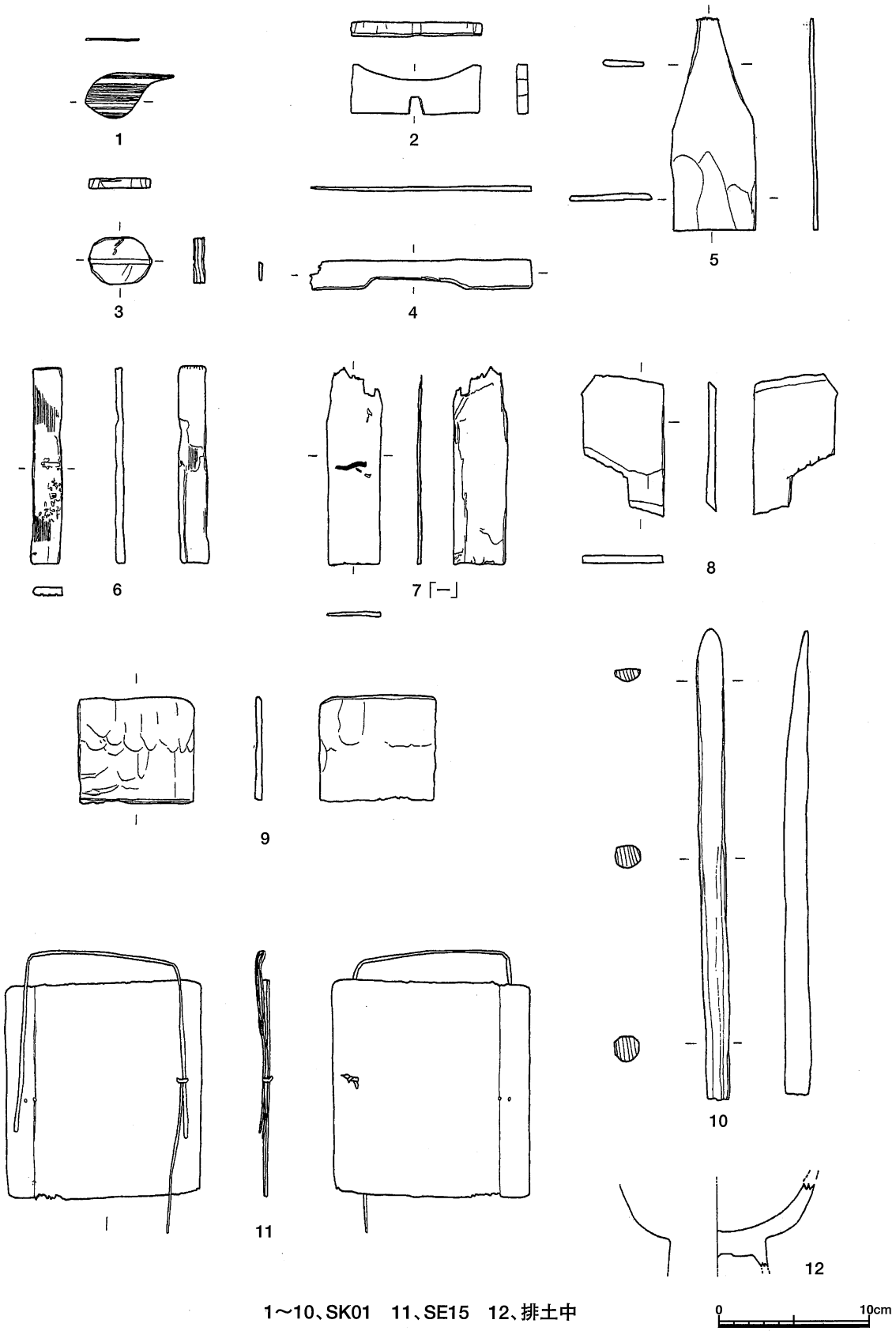
第10図　清水堂C遺跡包含層出土遺物実測図（1/4）



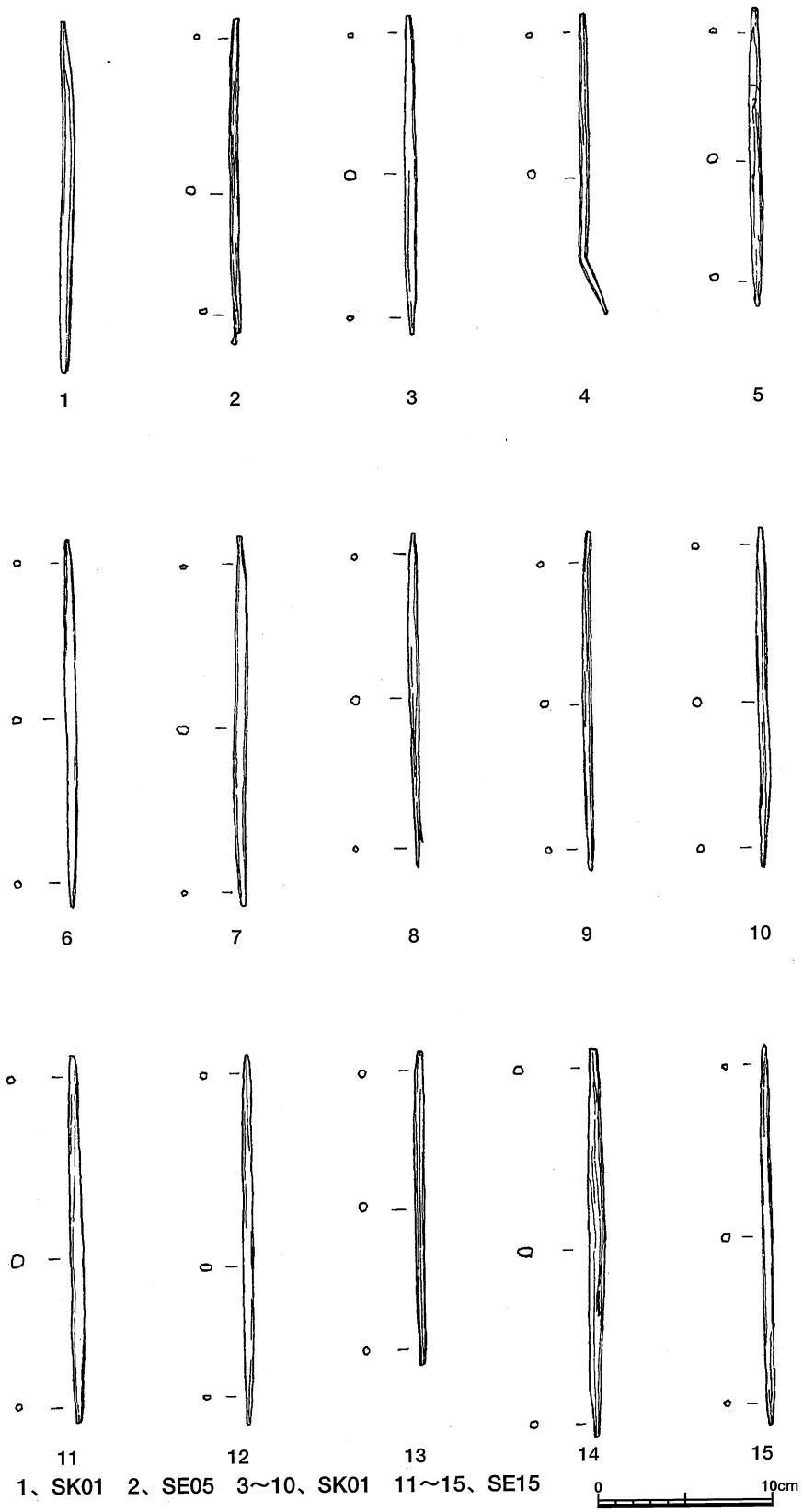
第11図　清水堂C遺跡遺構出土遺物実測図（1/4）



第12図　清水堂C遺跡　遺構(井戸)出土遺物実測図　(35は包含層出土)（1/4）



第13図　清水堂C遺跡　遺構出土木製遺物実測（1/4）



1、SK01　2、SE05　3～10、SK01　11～15、SE15

第14図　清水堂C遺跡　遺構出土　箸状木製品実測図（1/4）

ＳＥ２２（X237Y14）

開口部直径約0.65ｍ、底径約0.55ｍ、深さ約1.1ｍを計る。素掘りの井戸で、底部近くに約40㎝×25㎝の大きさの石が検出された。

溝跡

ＳＤ０１（第6図）

調査区南寄りに位置し、溝以南は遺構が薄くなる。幅約4.2ｍを計る。出土遺物には、弥生土器（9･10･11）、越中瀬戸焼（13･14）等がある。

土坑

ＳＫ０１（第8図）

調査区のほぼ中央に位置する。直径約1.25ｍを計る。土坑内からは箸状木製品約850本の他に、木製品（第13図）

が多く検出され、越中瀬戸焼（17）等も出土している。

ＳＫ０２（X223Y15）

調査区東壁にかかる土坑で、ここからも箸状木製品が数点検出された他、越中瀬戸焼片等が出土している。

(4)小結

今回の調査では約250㎡という狭長な調査区の中から22基もの井戸跡が検出されている。出土遺物から中世から近世期にかけて利用された井戸跡であったと考えられる為、何世代かに渡った集団の利用が考えられる。清水堂地区は、その名が示すとおり、立山連邦からの伏流水の湧水地帯にあたり、現在でも井戸水が多く利用されている。清水堂の名はこの地が作付け用水不足で旱魃が続いた折、一夜一老人の夢の告げにより、村人が井戸を掘ると清水が湧き、そこにお堂を建て、諏訪神を祀ったという伝承がその由来として残っている。湧水地を求めてこの地を選んで生活を営んだ集団の集落が近隣に想定される。

3. 清水堂Ｂ遺跡

(1)試掘調査の概要

清水堂Ｂ遺跡は富山市水橋清水堂字中坪、字大塚に位置し、現在は墓地に覆われている清水堂古墳を囲むように遺跡の広がりが想定されている。今回のほ場整備では、古墳の墳丘と考えられる高まりは、工事から除外されることとなり、周囲の水田及び畑地約5,000㎡が工事対象となるため、試掘トレンチを13箇所設定し、試掘調査を行った。清 水堂古墳の周囲には、周濠等の施設が残っている事が想定されるため、古墳を中心に作物の作付けの合間を縫って放射状に試掘トレンチを設定した。

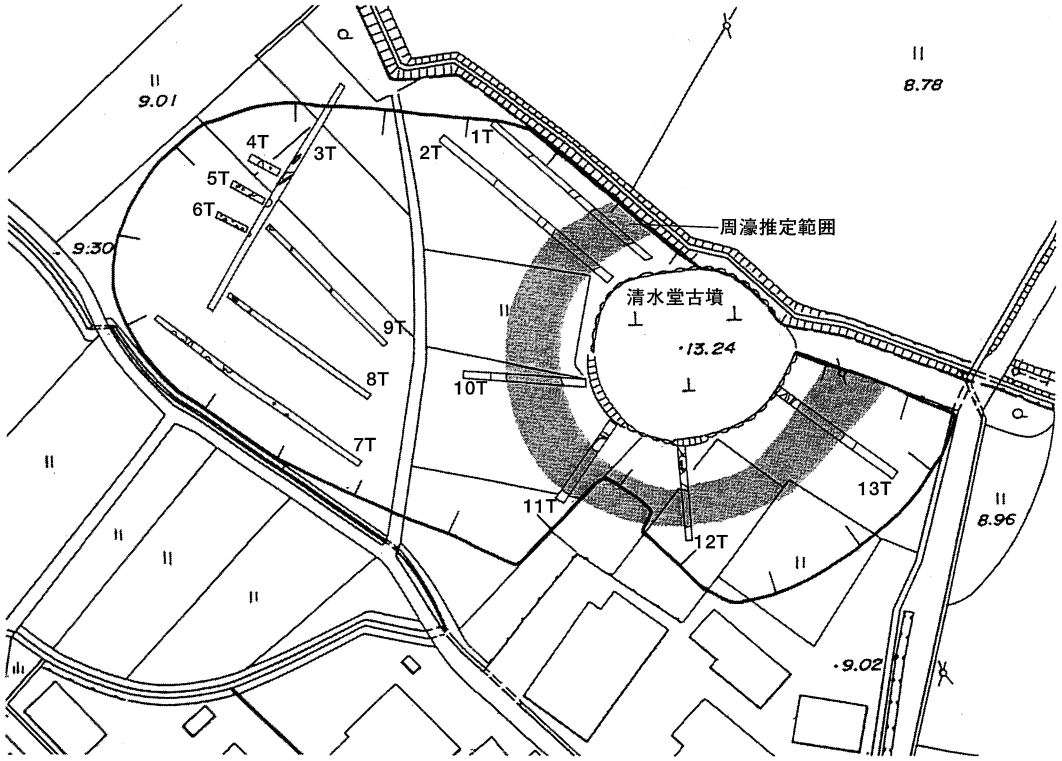
基本層序は、第１層耕作土（厚さ15～20㎝）第２層灰褐色土（厚さ１～20㎝、遺物包含層）、第３層黄白色あるいは青灰色土（地山土）に至る。第３層の地山面を掘り込んで、穴、溝等の遺構が検出された。遺構面は表土から約15～40㎝の位置に検出されている。

(2)遺構と遺物（第15図、第17図）

今回設定した全ての試掘トレンチから遺構が検出された。1T･2T･10T～13Tにおいては、幅７～7.5ｍの溝が各々のトレンチを横切っており、それを繋ぐと清水堂古墳を取り囲むような形となり、古墳の周濠であった可能性が高い。なお、一部トレンチにかかる溝の覆土を除去してみた所、深い所で約20㎝で溝底に至り、上部がかなり削平を受けていた事が想定できる。また、周濠に囲まれた墳丘側の平坦面には、中世期の遺構が検出され（11T～3T）、当該期には 古墳が削平を受けていたことが想定される。しかし今回確認された溝から、墳丘の直径を推測すると、清水堂古墳は約30ｍの円墳であった可能性が高い。

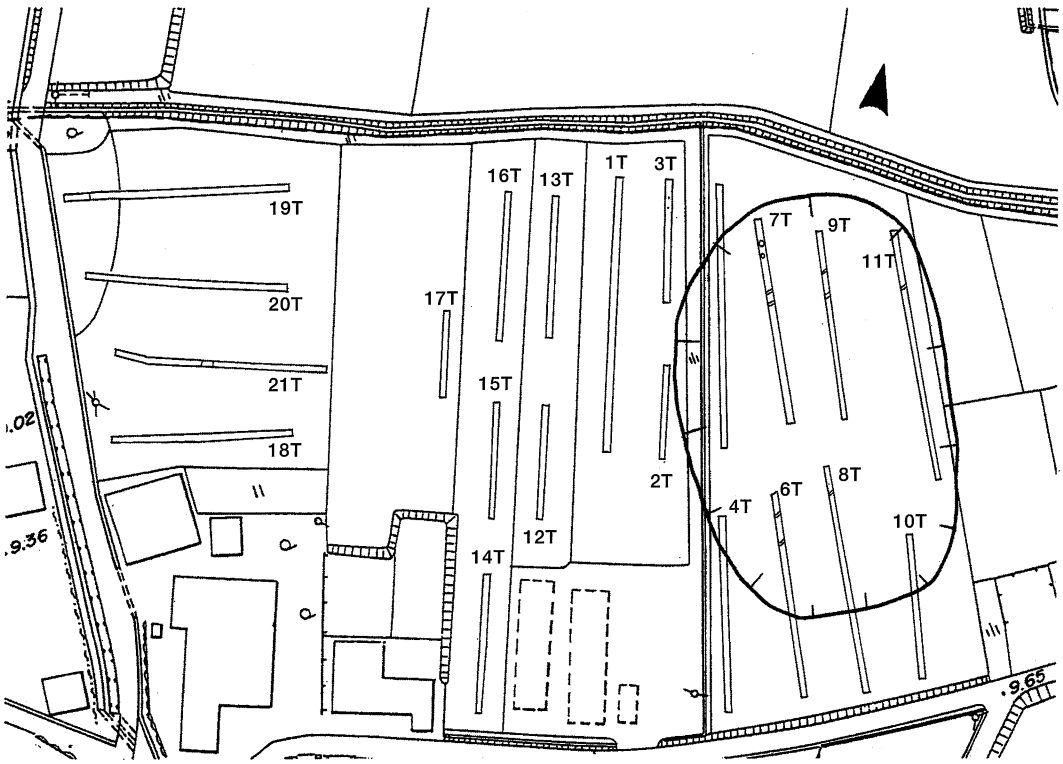
一方、調査区西寄りに設定したトレンチからは、掘立柱建物に伴うと考えられる小穴群を検出した（4T～6T）。

出土した遺物は、弥生土器（1､2）、須恵器蓋（3）、土師器（4～7）、越中瀬戸焼（8～13）、唐津焼（14･15）、珠洲焼等がある。周濠と思われる溝跡からは、弥生土器が検出されたのみで、古墳の時期を決定付ける遺物の出土は無かった。



第15図　清水堂B遺跡試掘トレンチ位置図（1／1,000）

0　50m



第16図　清水堂小深田遺跡試掘トレンチ位置図（1／1,000）

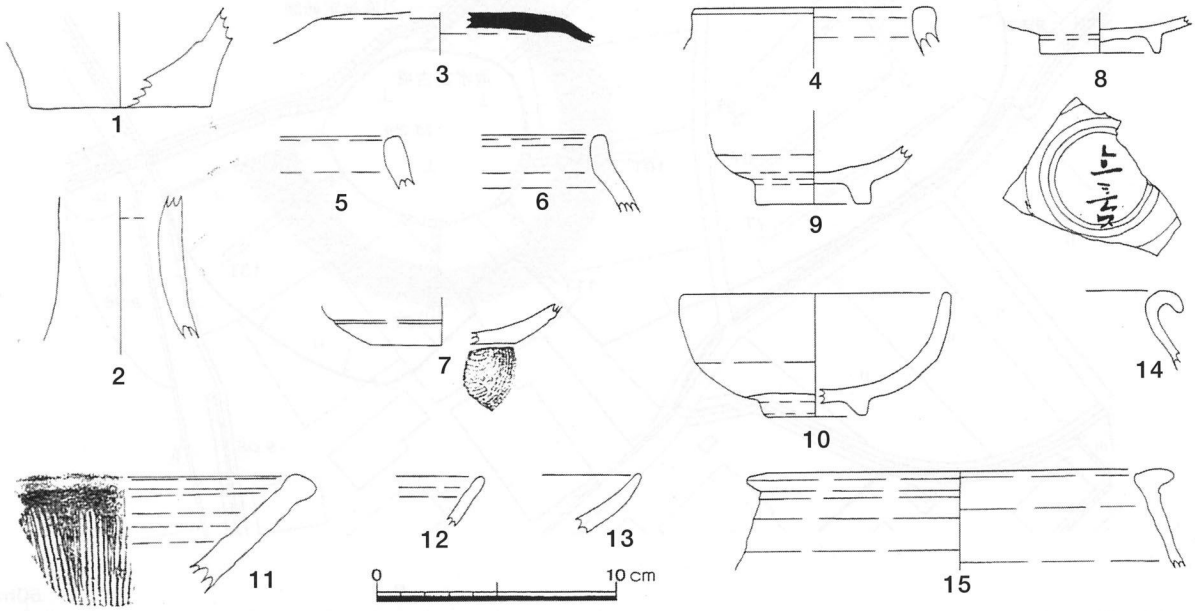
0　50m

4. 清水堂小深田遺跡

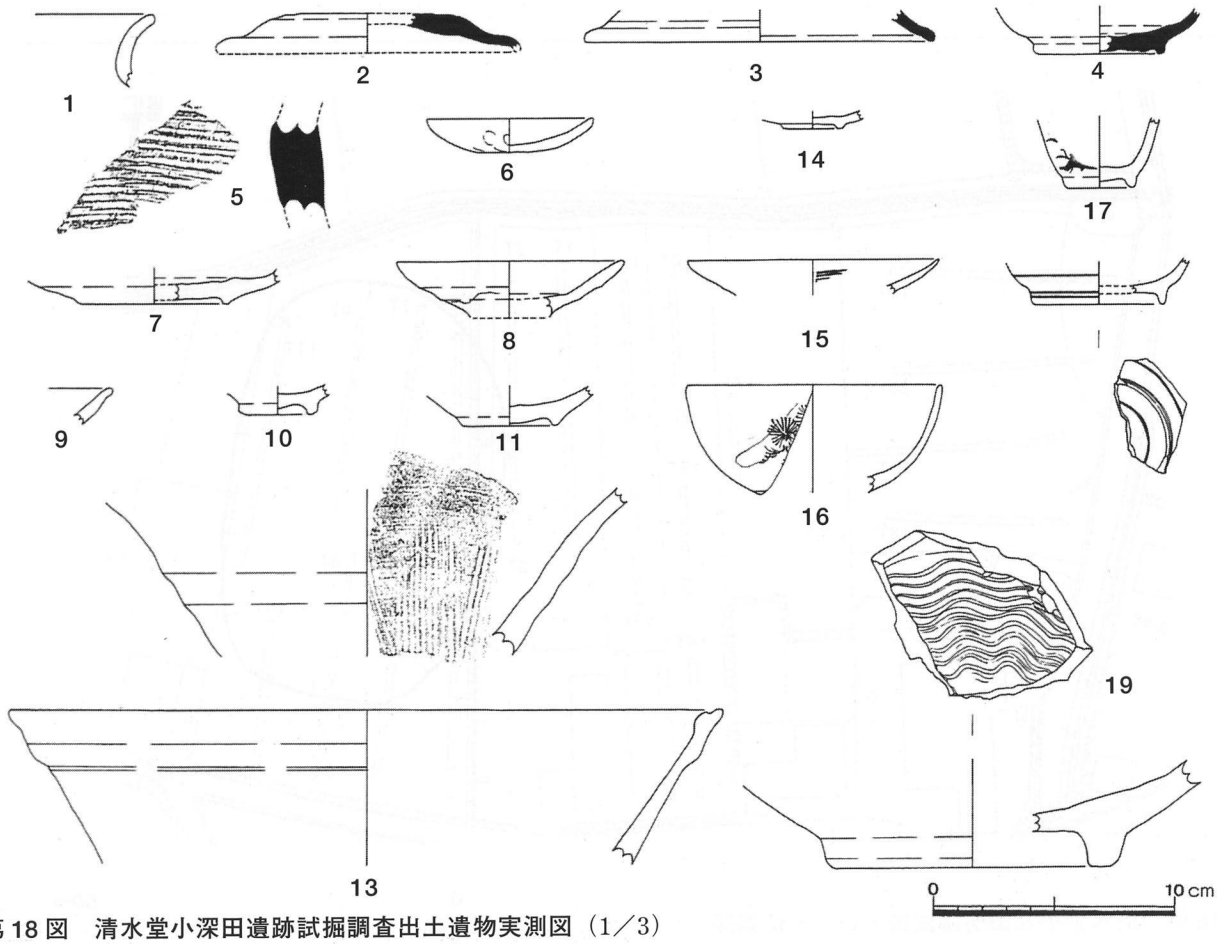
(1)試掘調査の概要

清水堂小深田遺跡は、富山市水橋清水堂字小深田地内に位置している。ほ場整備にかかる4,000㎡を対象に試掘トレンチ21箇所を設定し調査を行った。

基本層序は、第1層水田耕作土（厚さ30㎝）、第2層黄褐色シルト土（厚さ10～15㎝、遺物包含層）、



第17図　清水堂B遺跡試掘調査出土遺物実測図（1／3）



第18図　清水堂小深田遺跡試掘調査出土遺物実測図（1／3）

第3層暗灰色粘質土（厚さ約40㎝）、第4層黒褐色粘質土（厚さ10～15㎝）、第5層青灰色粘土（地山土）に至る。遺構面は第5層を掘り込んで若干の溝跡、小穴等を検出している。第2層には若干の遺物が確認されたが第3層上面には遺構は確認されていない。

遺構は調査対象区東寄りに設定したトレンチで確認されており（6T～9T・11T）、4T・10Tの北寄りには遺物包含層から土器等の出土を見た為、この範囲を含め清水堂小深田遺跡は1,700㎡の範囲に広がっている状況を確認した。

(2)遺構と遺物（第16図、第18図）

遺構は6T～9T·11Tのいずれも北寄りの地区に、トレンチの東西を幅20～30㎝の溝が数条横切る。覆土は黒褐色粘質 土を呈する。一部覆土中から自然木の出土が確認できたが、土器等は確認されなかった。

出土遺物には、弥生土器（1）、須恵器蓋（2·3）須恵器有台杯（4）、珠洲焼（5）、土師質土器（6）、越中瀬戸 焼（7～13）、近世～近代陶磁器（14～19）等がある。

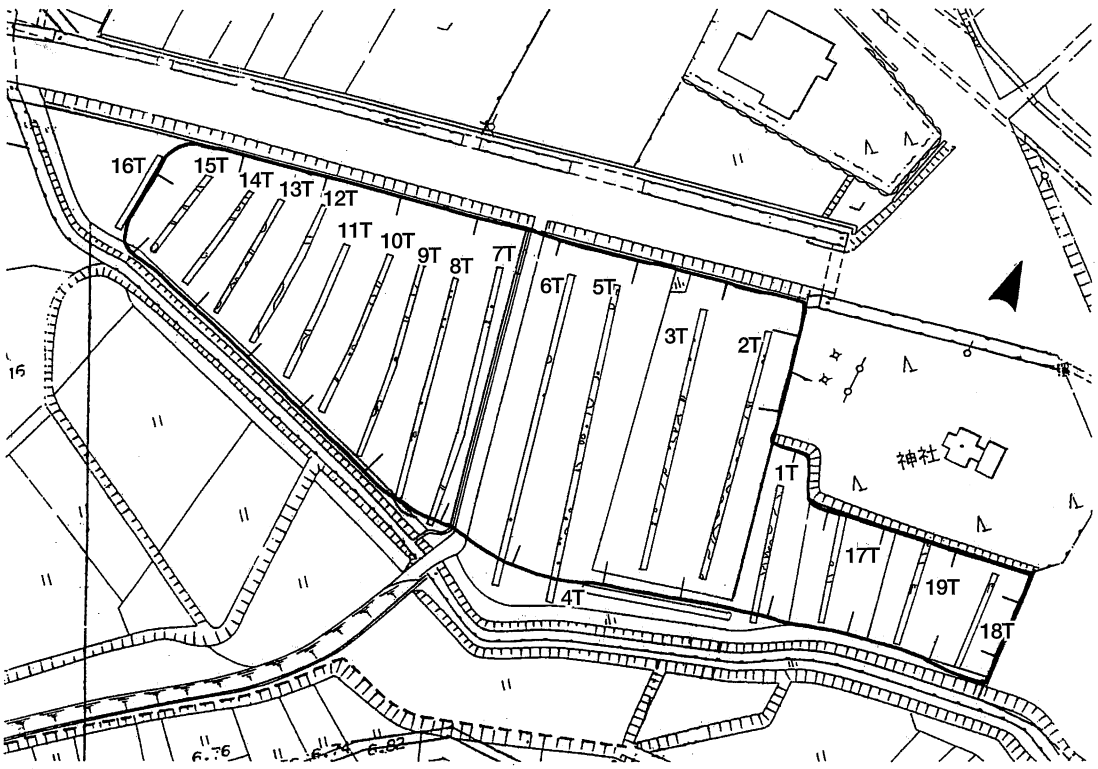
5. 清水堂宗平邸遺跡

(1)調査の経緯

平成６年度の試掘調査で、約200㎡に遺跡の範囲を確認した。これを踏まえて富山農地林務事務所と協議を行った 結果、水路敷設箇所50㎡について発掘調査による保護措置を要することとなり、発掘調査を実施した。

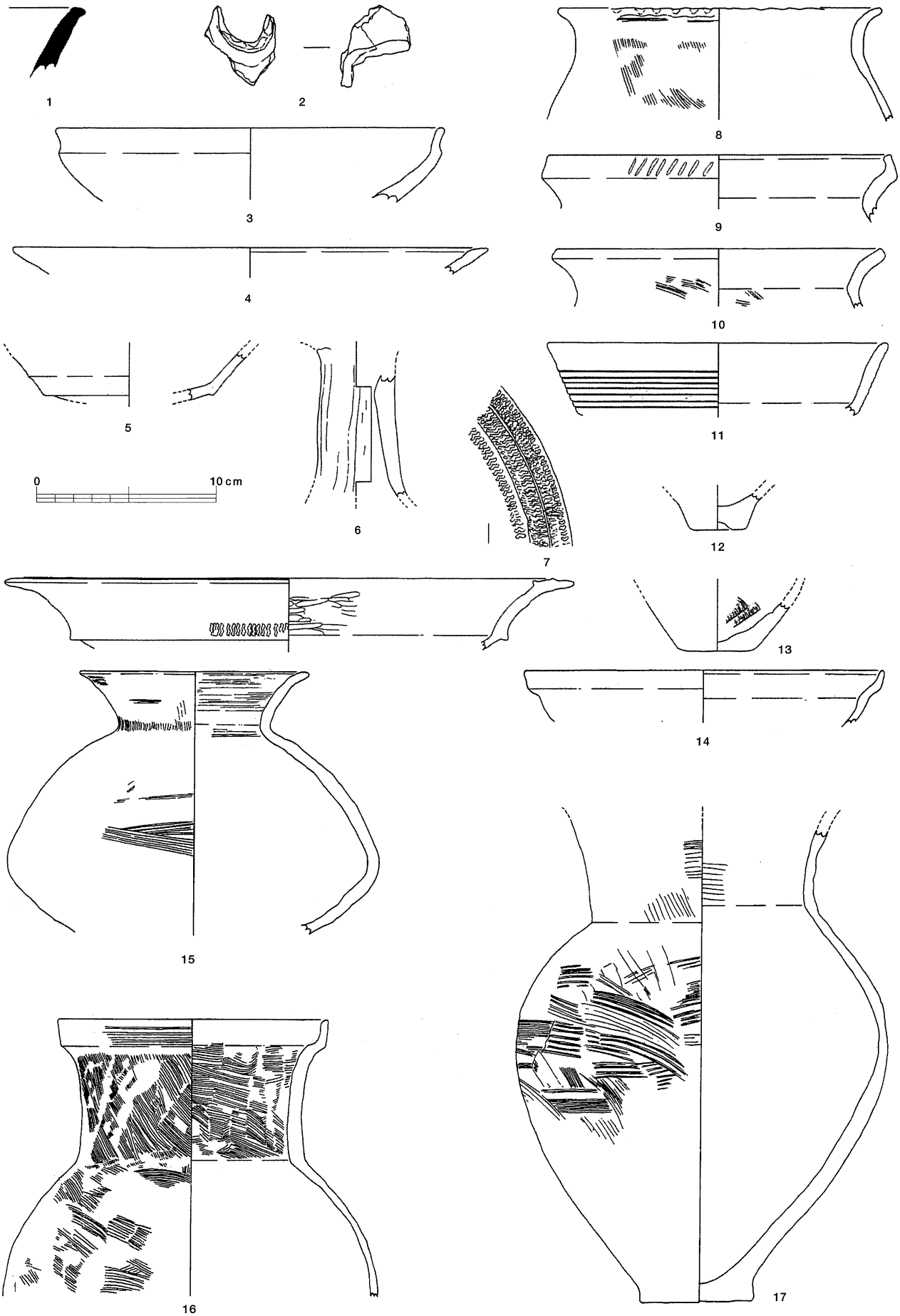
(2)発掘調査の概要（第21図）

遺跡の中央を南北に延びる50㎡の調査区を設定し、発掘調査を実施した。検出された遺構は、調査区南壁から北東方向に延びる溝跡数条を検出し、調査区北寄りに数か所と南寄りに１箇所小穴を検出した。溝跡からは木片及び小石を数点検出するに留まった。遺物は調査区北寄りから土師器片数点及び、近世陶磁器片数点が出土した程度で、遺構の時期を確定できる遺物の出土は見なかった。



0　50m

第19図　清水堂D遺跡試掘トレンチ位置図（1／1,000）



第20図　清水堂D遺跡試掘調査出土遺物実測図（1/3）

(3)小結

今回の調査区は50㎡と僅かであった為、遺跡の性格を決定付けることは困難であるが、地元の人たちの話によると、昔この地に「そうべいやしき」と称される屋敷跡が存在していたと伝え聞いており、字名に残る宗平邸がかつてこの周囲に存在していた事を想定させる。

6. 清水堂Ｄ遺跡

(1)試掘調査の概要

清水堂Ｄ遺跡は、富山市水橋清水堂字押上、字与三兵衛屋敷地内に位置している。ほ場整備にかかる約5,000㎡を対象に試掘トレンチ19箇所を設定し調査を行った。

基本層序は、第１層水田耕作土（厚さ15～20㎝）、第２層灰褐色土（厚さ１～20㎝、遺物包含層）、第３層黄褐色土（地山土）に至る。遺構面は、第３層を掘り込んで溝、土坑、小穴等が西端に設定した19Ｔ及び南端の４Ｔ以外の全てのトレンチから検出された。遺構面は表土から約15㎝から30㎝と比較的浅い位置に存在している。清水堂Ｄ遺跡の範囲は3,760㎡に所在することが確認された。遺跡の南は旧白岩川の川道にあたり、現況水田面は約１ｍの段差が ある。遺跡の確認された地点は、旧白岩川が北から東へ向かいさらに南へと褶曲する低位段丘に位置するため、幾度かの水害や、耕作等の削平を受けていることが想定される。

出土遺物等から、遺跡は弥生時代中期末から後期後半を主体とする集落跡と考えられ、若干中世期から近世期の遺構も同一の遺構面に存在するものと想定される。

(2)遺構と遺物（遺構第19図、遺物第20図）

試掘調査対象地の東寄り（諏訪神社の南）の地区に大溝あるいは谷地形の北肩が検出され（18T･19T）、覆土中か ら完形に近い弥生土器の壷等が出土した（15･16･17）。また、2Tからは直径約１～1.5ｍの円形の土坑群が検出され、暗灰褐色の覆土中からは、破砕した弥生土器片が多く出土している。さらに、5Tからはスタンプ文を施し丁寧にヘラミガキされ赤彩を施された高杯（7）が出土している。遺跡の中央付近は遺構の密度は薄くなる（6T･7T）が、さらに西になると溝・穴・焼土を伴う土坑等も存在し遺構の密度は濃くなる。

出土遺物には弥生土器の甕・壺・高杯・器台、土師器、珠洲焼、越中瀬戸焼などコンテナ箱４箱分出土した。

(3)発掘調査の経緯

試掘結果を踏まえて富山農地林務事務所と協議を行った結果、諏訪神社南の地区については、水田面調整を行った結果現況の高さを保ったまま整備を施工する事で、遺構などは保護される事となったが、当該地区以西の水田及び農道・水路については、県農地林務事務所側で地元を含めて検討された結果、現況より約１ｍ近く削平を行う計画の変更が不可能となった為、まず諏訪神社西側の南北に延びる道路及び水路約600㎡を対象に発掘調査を実施した。道路 及び水路以西の水田面調整により削平の計画がある地区については、今後、工法等を検討し発掘調査が必要となるか、県埋蔵文化財センターの指導の下、協議を詰めていく事となった。

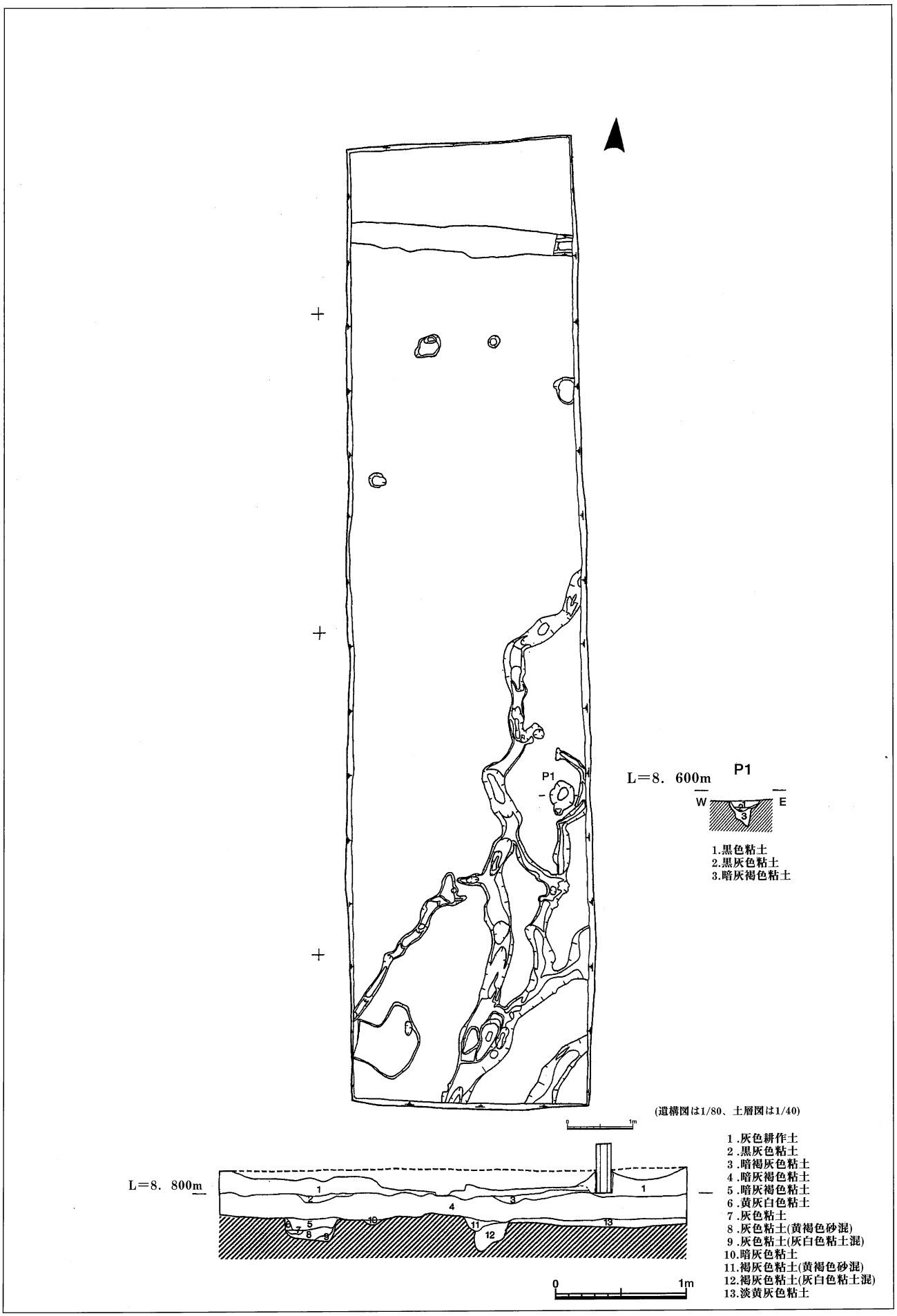
(4)発掘調査の概要

試掘調査で遺構面は表土直下に検出されているため、重機による表土排土中にも遺物が出土しており、表土も遺物包含層ととらえる事も可能である。ただ、耕作の為砕片が多く接合する遺物は僅かであった。表土排土後、作業員により遺構検出作業、遺構発掘を引き続き行った。

検出された遺構は弥生時代後期後半～終末期と考えられる掘立柱建物１棟・大小の円形土坑19基・溝跡１条、古代の溝跡１条、中世～近世の土坑３基・溝跡３条・小穴群等がある。

出土遺物は、弥生時代後期後半から終末期にかけての土器（甕・壺・高杯・器台・椀・蓋）、ヒスイ原石、水晶原石、ガラス小玉、緑色凝灰岩片等が円形土坑中から出土している。

円形土坑群の詳細については別表及び(5)で記すが、切り合いをもつもの（ＳＫ03･08･15･16）が存在し、



第21図　清水堂宗平邸遺跡発掘調査　遺構平面図及び調査区南壁土層断面図

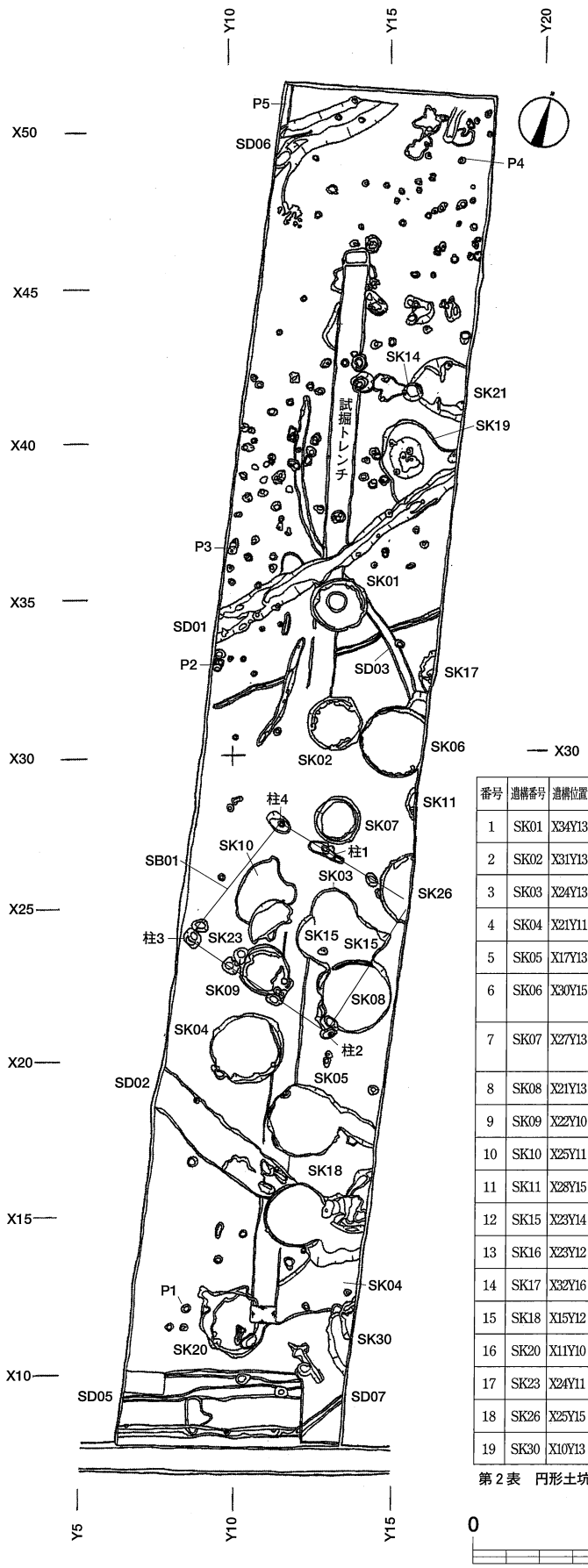
ある程度時期幅をもって造られていったものと想定される。掘立柱建物については、また、ＳＫ18・ＳＫ21は古代の溝に切られ、ＳＫ01は中世の以降の溝跡に切られている。
一方、ＳＫ01の北に南北方向に走るSD01を境にして、弥生時代の円形土坑は見られなくなり、中世期の遺構がその主体となる（SK14・SD03・04等）。掘立柱建物に伴うと考えられる小穴群が、X35～50付近にまとまって検出されているが、現近代～現代にかけての小穴も混じっており、弥生期及び中世期と確定できる建物跡に伴う柱の並びを確認するには至らなかった。
掘立柱建物（SB01）については、X21～28付近に東西方向に調査区を横切っており、1間？×3間以上？の建物と想定され、南側の柱列に近接して柱列が確認出来、建て替えが行われていた事が想定される。

(5)円形土坑について

土坑はほぼ直線上に並ぶ直径1.5m～1.7mの一群とその周辺に直径2.0m～2.3mのやや大型の円形土坑群が配置している。土坑内から出土する土器は殆ど破砕された状態で、埋土は地山小ブロックが混入し、自然に埋ったものとは考えにくく人為的な埋め戻しによる状況が伺われ、中には途中で薄い焼土及び炭層が入る土坑も4基確認されている。出土遺物は破砕された土器に混じって、ガラス小玉、ヒスイ・水晶の原石、緑色疑灰岩片を埋土中から検出した土坑も存在する。
土坑が造られた時期についてであるが、切り合い関係をもつ土坑もあり若干の時期幅は考えておく必要がありまた、今後の出土土器の詳細な検討を要するが、弥生時代後期終末以前の時期に造られたものと思われる。
弥生時代の後半～終末の時期に、丘陵上に形成される集落において大型の円形あるいは方形の土坑が見られる。
この土坑に関しての論考も行われており、その機能としては地下式の貯蔵用施設であるとの見解がなされている。
ところが、富山市内においてこれまで調査例の少なかったこの時期の平野部において近年、2遺跡からかかる円形土坑がまとまって出土したことから、これまで概して台地・丘陵上での検出例から、その見解がなされてきた貯蔵穴としての性格に一考を加え得る資料になるのではないかと考える。
一つは本報告で紹介した白岩川中流右岸に位置する清水堂D遺跡例であり、もう一つは海岸部に近い富山市日方江遺跡で確認されている例である。後者においては、遺跡のすぐ西を村川水路が流れ、海岸砂丘内側に広がる微高地上に立地し、42㎡のトレンチ内に直径1.8m～2.2mの3墓の円筒状土坑と直径4.3mの断面U字形土坑1墓を検出している。遺構を区画する溝等は確認されてないが、遺跡西側に集中するという占地の特色が指摘されている。円筒状土坑からは赤彩された土器も出土しており、堆積状況から貯蔵穴もしくは墓墳ではないかとの見解が示されている。なお、断面U字形土坑については時期が遡り弥生中期の遺構とされている。
以上の2遺跡は、扇状地からデルタ地帯及び海岸近くに位置するといった立地条件からして頻繁に洪水等の被害を被る場所にある、一般に貯蔵用施設と理解されている遺構の条件を備えているが、ここではそういった利用以外の用途も今後検討していく必要があるのではないかと考えている。

参考文献

古川知明　1989「日方江遺跡」『昭和63年度　富山市埋蔵文化財発掘調査概要』富山市教育委員会
三浦純夫　1987「北陸における弥生時代の大型土坑」『考古学と地域文化』同志社大学考古学シリーズⅢ
北野博司　1991「大型土坑について」『押水町冬野遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター

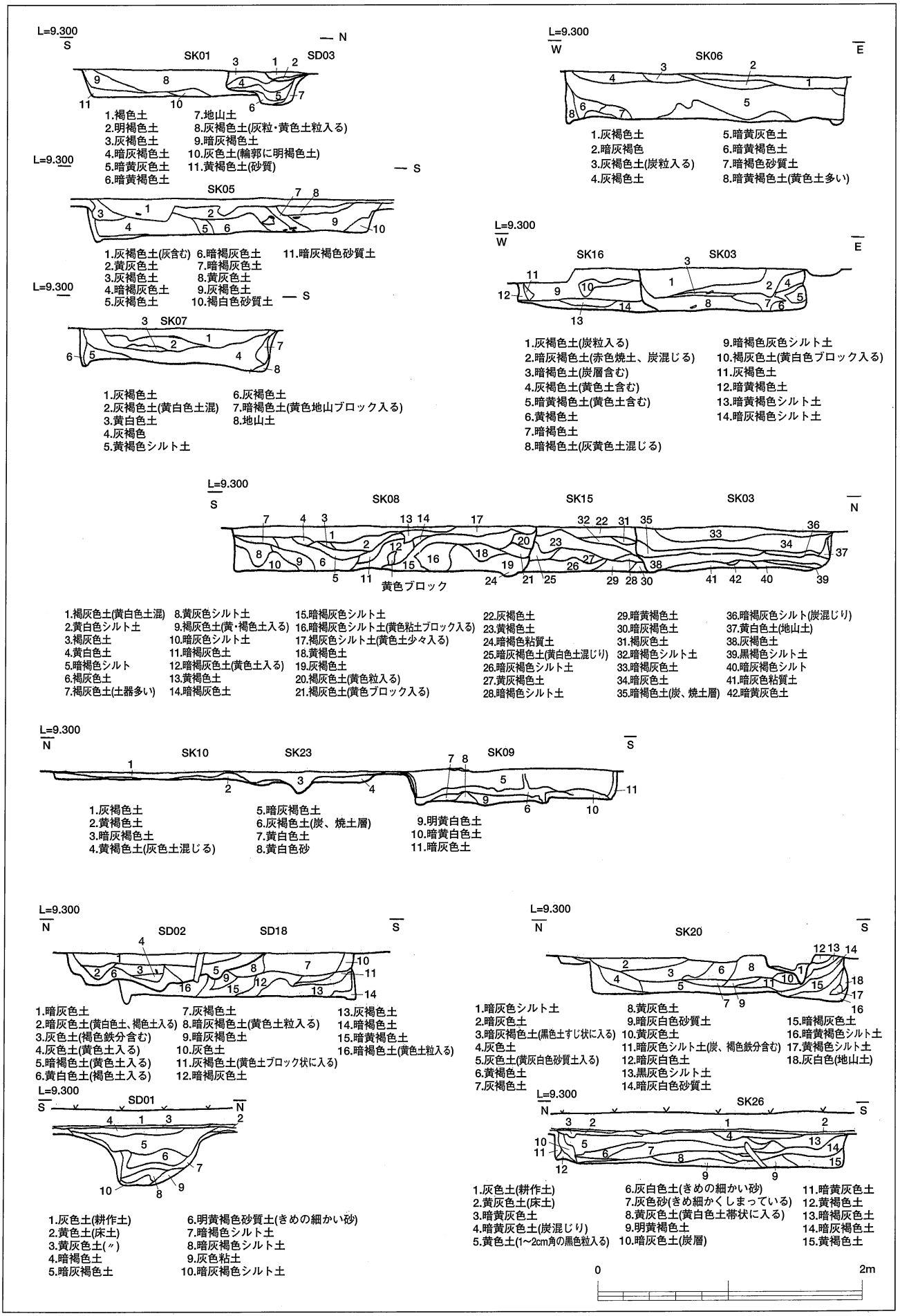


番号	遺構番号	遺構位置	直径m	壁溝	出土遺物	備考
1	SK01	X34Y13	1.75	あり	弥生(高杯脚1・壺口縁2肩1・甕か壺の底部1・破片51)	SD03に切られる
2	SK02	X31Y13	1.67	あり	弥生(高杯1・赤彩壺口縁1・甕口縁1・甕か壺の底部1・口縁部2・破片37)	
3	SK03	X24Y13	1.50	なし	弥生(赤彩壺1・壺口縁4・甕か壺の底部2・破片71)、水晶原石1	SK15・16を切る 薄い炭層入る
4	SK04	X21Y11	2.30	あり	弥生(高杯脚1・壺口縁2・甕口縁1・甕か壺の底部2・破片115)	
5	SK05	X17Y13	2.30	(あり)	弥生(高杯脚2・壺口縁1・甕口縁5・甕か壺の底部1・破片50)	
6	SK06	X30Y15	2.31	あり	弥生(赤彩高杯1・高杯脚1・高杯杯1・赤彩壺口縁・甕口縁5・甕か壺の底部1・破片81)、石(チャート)1、鉄片1	
7	SK07	X27Y13	1.52	あり	弥生(赤彩土器の体部片1・赤彩高杯1・高杯脚2・壺1・壺口縁3・甕口縁1・?口縁4・甕か壺の底部1・破片84)	
8	SK08	X21Y13	(2.33)	あり	弥生(壺口縁1・甕口縁1・?口縁7・甕か壺の底部2・破片129)、炭片	柱穴・SK15を切る
9	SK09	X22Y10	1.50	あり	弥生(高杯脚1・高杯杯1・壺口縁1・甕口縁2・?口縁2・破片84)、ヒスイ原石1	炭層・焼土入る
10	SK10	X25Y11	(2.30)	−	弥生(高杯脚1・?口縁1・破片14)	柱穴を切る
11	SK11	X28Y15	(1.58)	−	弥生(赤彩高杯1・壺口縁1・破片12)	
12	SK15	X23Y14	−	−	弥生(高杯台部1・甕口縁1・破片36)、緑色凝灰岩小片	
13	SK16	X23Y12	(1.54)	なし	弥生(壺口縁2・甕底部1・破片34)、緑色凝灰岩小片	
14	SK17	X32Y16	(1.74)	なし	弥生土器破片3	
15	SK18	X15Y12	2.00	あり	弥生(器台?1・破片32)	SD02に切られる
16	SK20	X11Y10	2.10	−	弥生(高杯脚1・高杯4・壺口縁1・?口縁2・甕?底部1・破片50)	薄い炭焼土層入る
17	SK23	X24Y11	(1.95)	−	弥生(高杯1・甕体部1・破片22)	SK10を切る
18	SK26	X25Y15	(2.20)	なし	弥生(高杯台部1・器台?1・壺口縁1・?口縁1・破片43)	薄い炭・焼土層入る
19	SK30	X10Y13	−	−	弥生(甕か壺片6・破片4)	

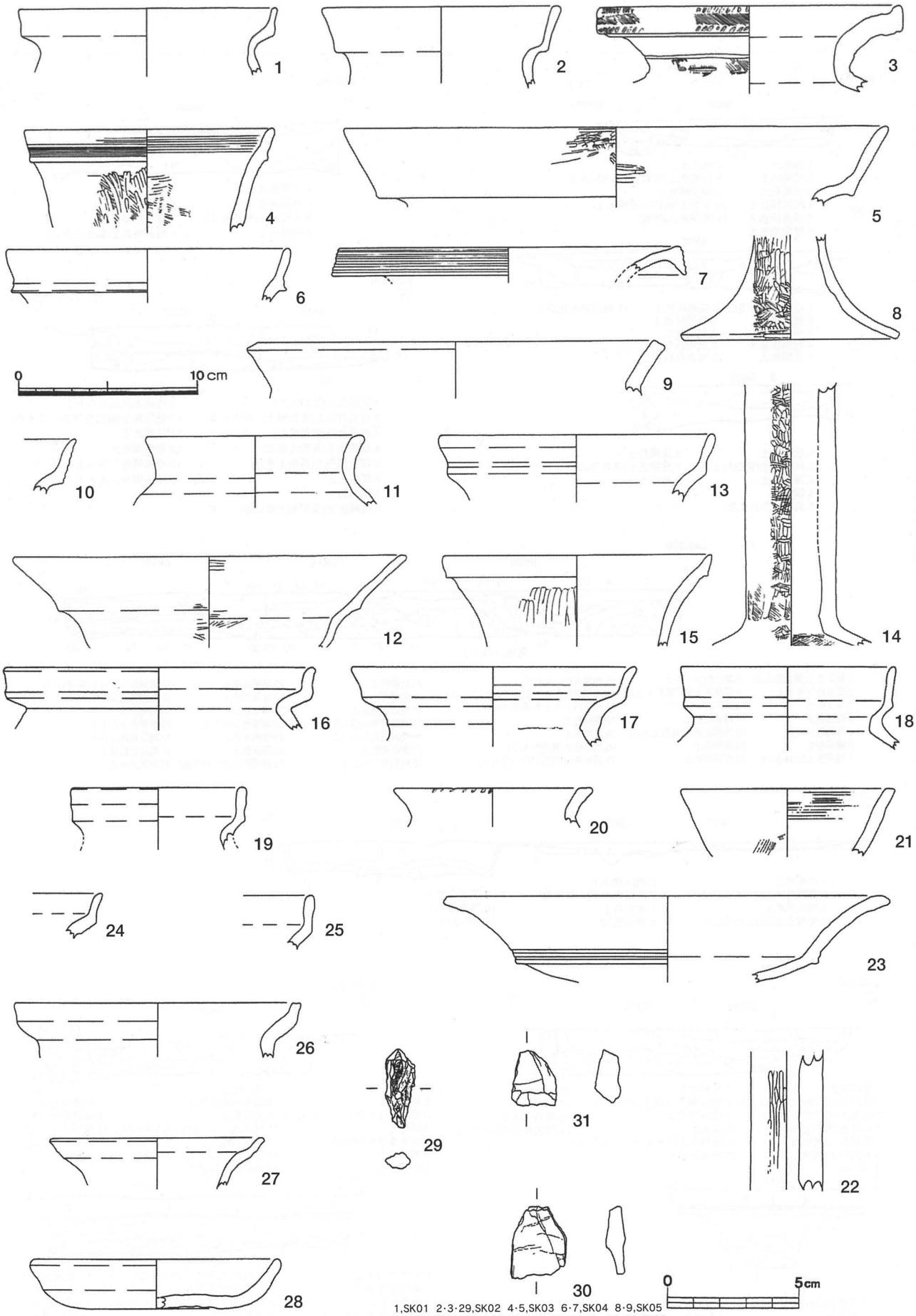
第2表　円形土坑観察表

0　100m

第22図　清水堂D遺跡発掘調査遺構平面図（1/200）

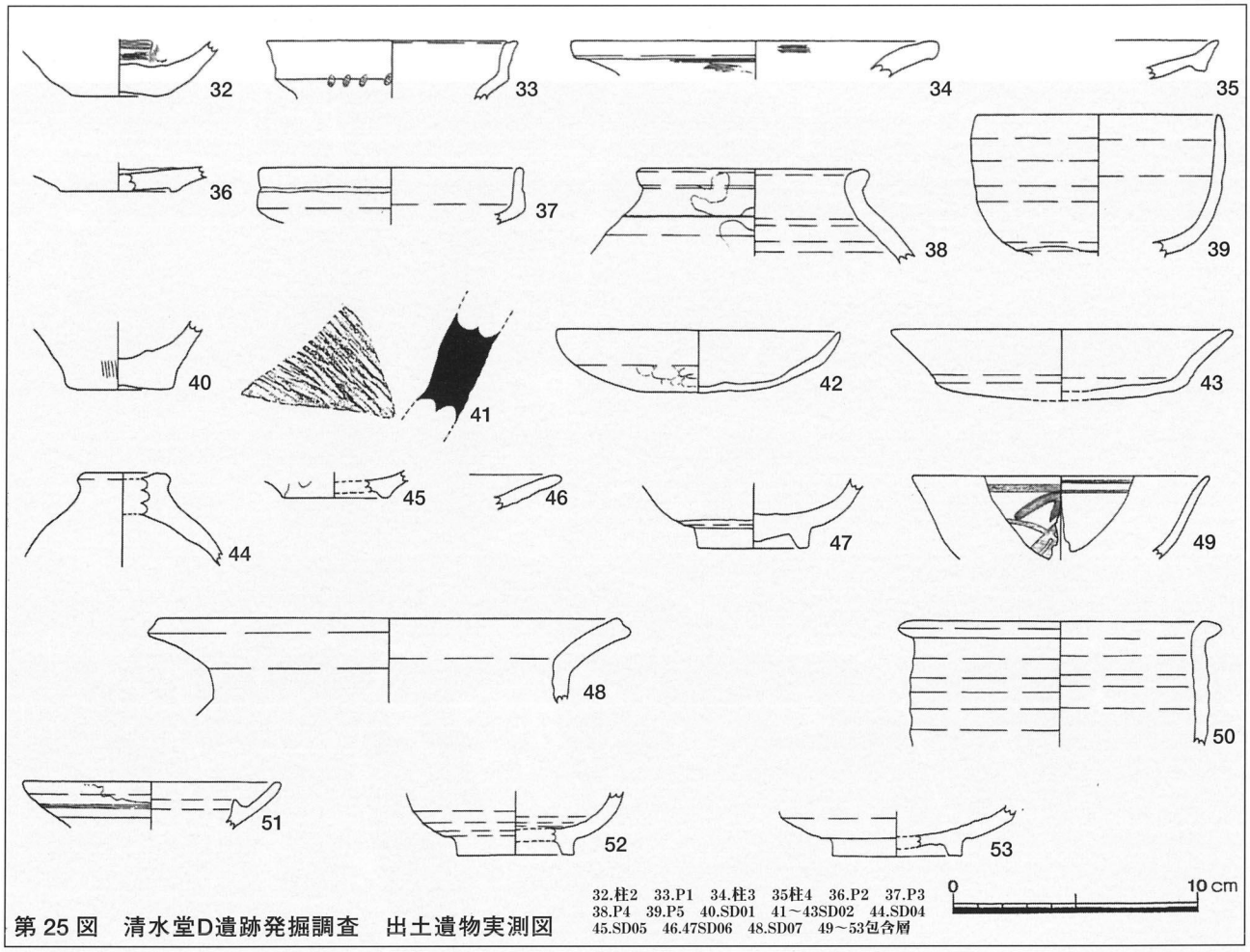


第23図　清水堂D遺跡発掘調査遺構土層断面図（1/40）



1,SK01 2·3·29,SK02 4·5,SK03 6·7,SK04 8·9,SK05
10～12,SK06 13·14,SK07 15,SK08 16～18·30,SK09
19,SK11 20·21,SK15 22,SK16 23,SK20 24,SK23
25·26,SK26 27,柱1 28,SK14 31,排土中

第 24 図　清水堂D遺跡発掘調査出土遺物実測図



32.柱2　33.P1　34.柱3　35柱4　36.P2　37.P3
38.P4　39.P5　40.SD01　41～43SD02　44.SD04
45.SD05　46.47SD06　48.SD07　49～53包含層

第25図　清水堂D遺跡発掘調査　出土遺物実測図

図版1

1.清水堂地区航空写真(1：10,000)

2.清水堂A・C遺跡

1.清水堂A遺跡

2.清水堂C遺跡

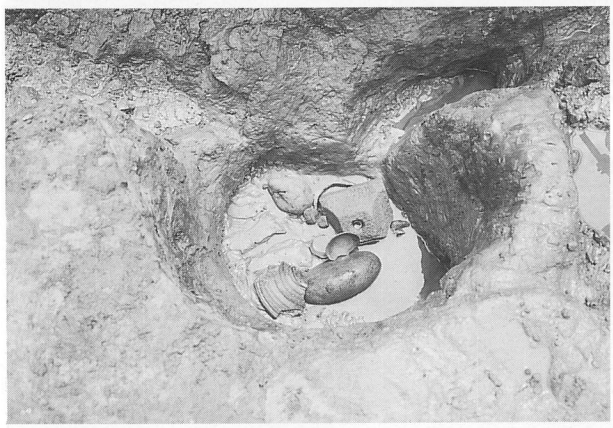
3.清水堂C遺跡遺構検出状況

4.清水堂C遺跡　SD01

5.清水堂C遺跡　井戸集中地区

図版 3（清水堂C遺跡）

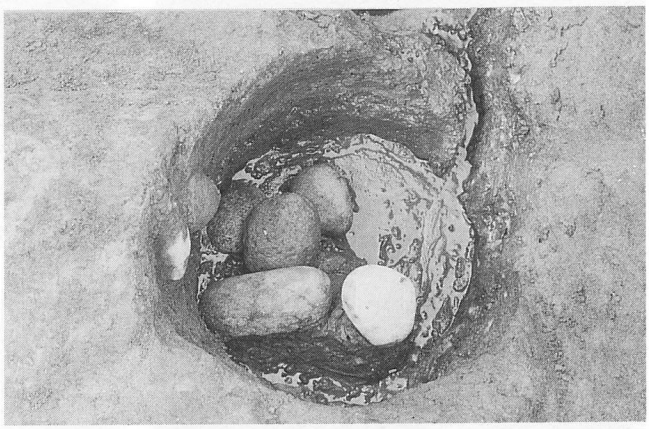
1.SK01



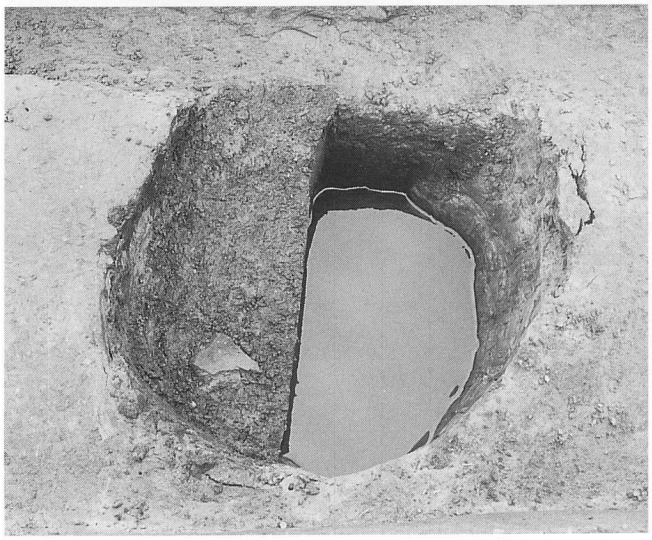
2.SE08

3.SE21（上）,SE07（下）

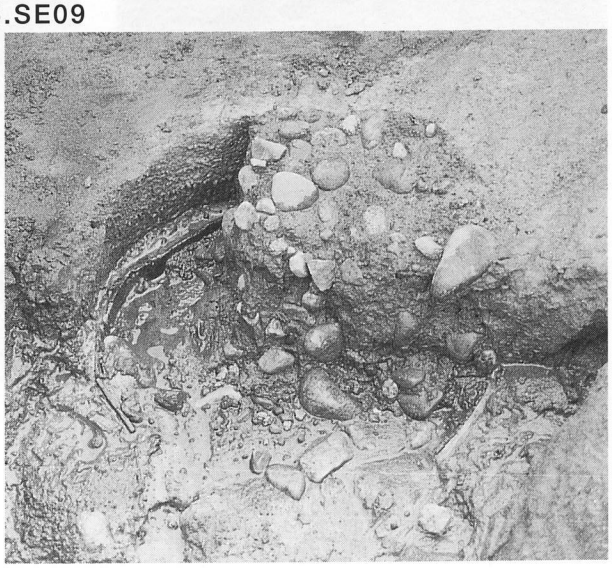
4.SE15上面



5.SE09

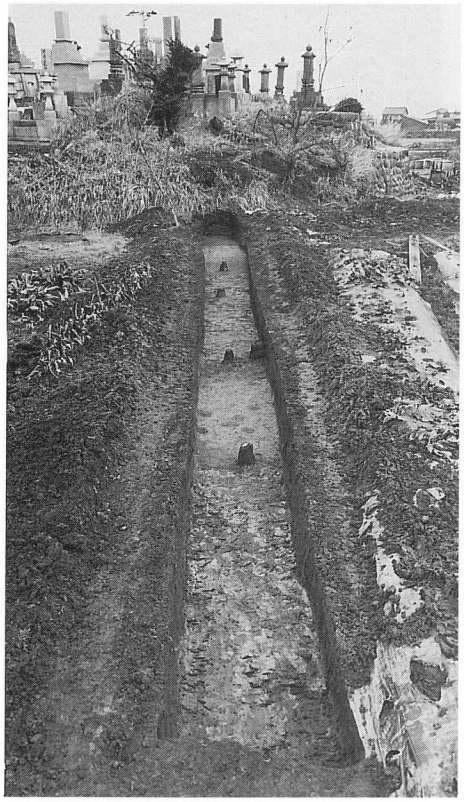


6.SE19



7.SE12

図版 4（清水堂B遺跡）

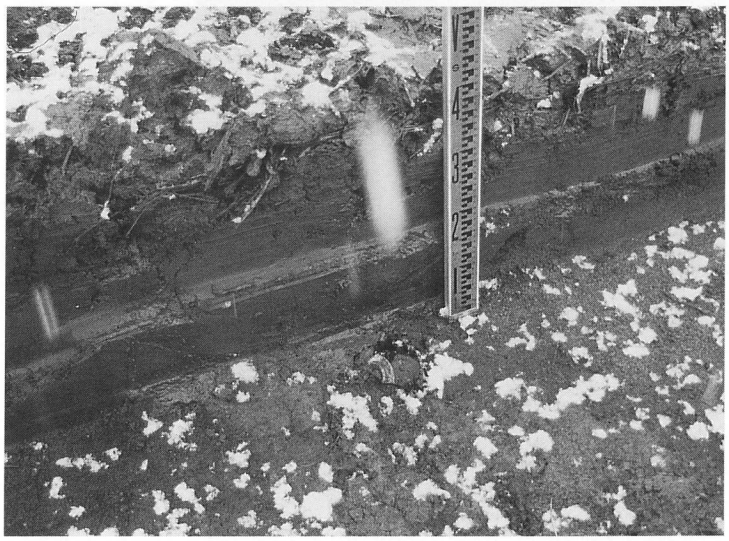


1.10T（西より）

2.10T

3.13T（西より）

4.8T

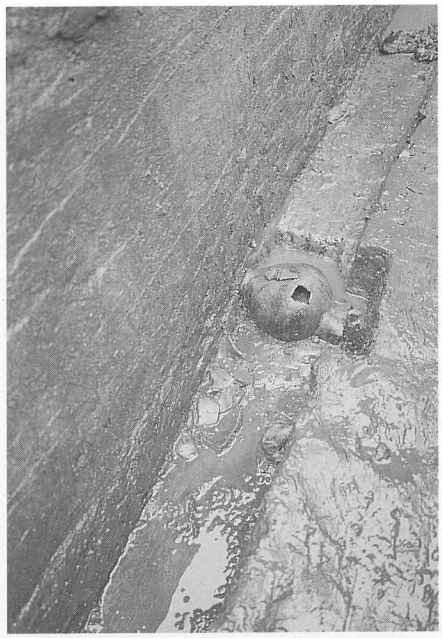


5.9T

図版 5（清水堂D遺跡・清水堂小深田遺跡）

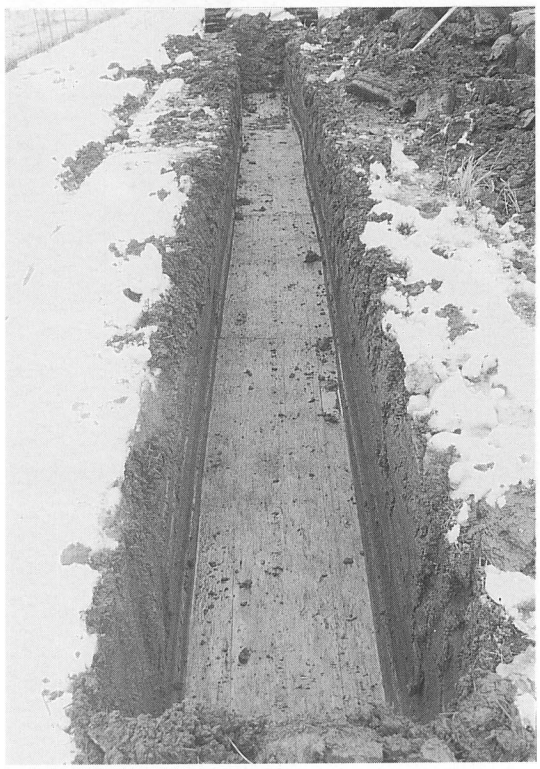
1.清水堂D遺跡

2.清水堂D遺跡（3T）



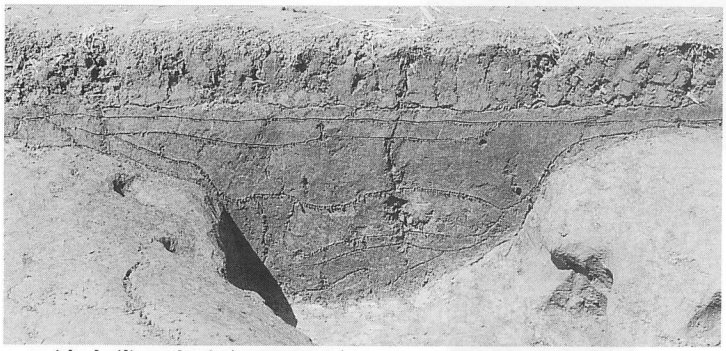
3.清水堂D遺跡（19T）

4.清水堂D遺跡（2T）

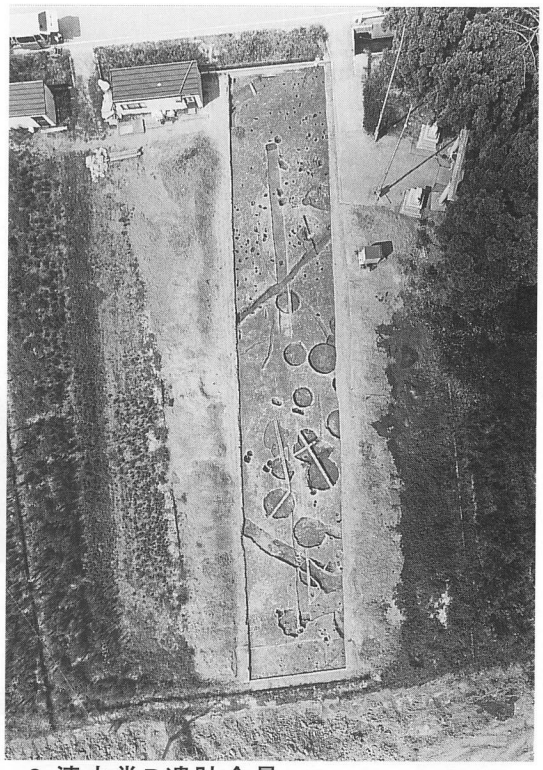


4.清水堂小深田遺跡

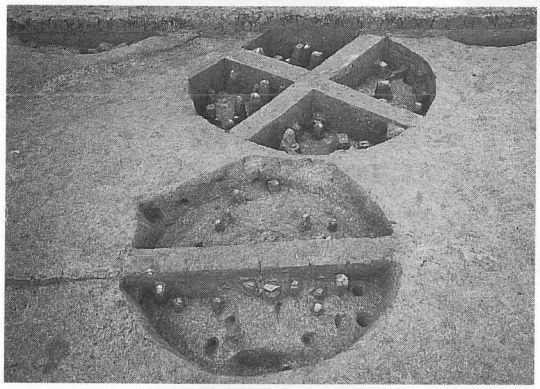
1.清水堂宗平邸遺跡



2.清水堂D遺跡(SD01壁)



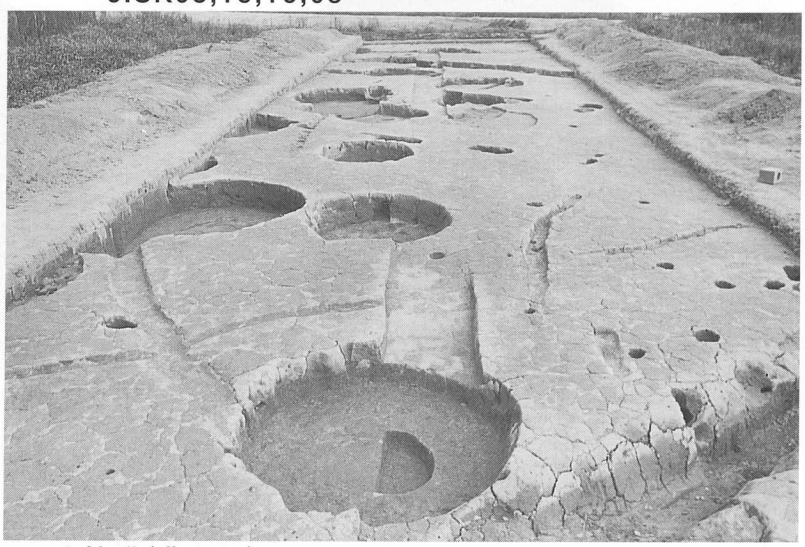
3.清水堂D遺跡全景



4.SK06(上),SK02(下)

6.SK03,15,16,08

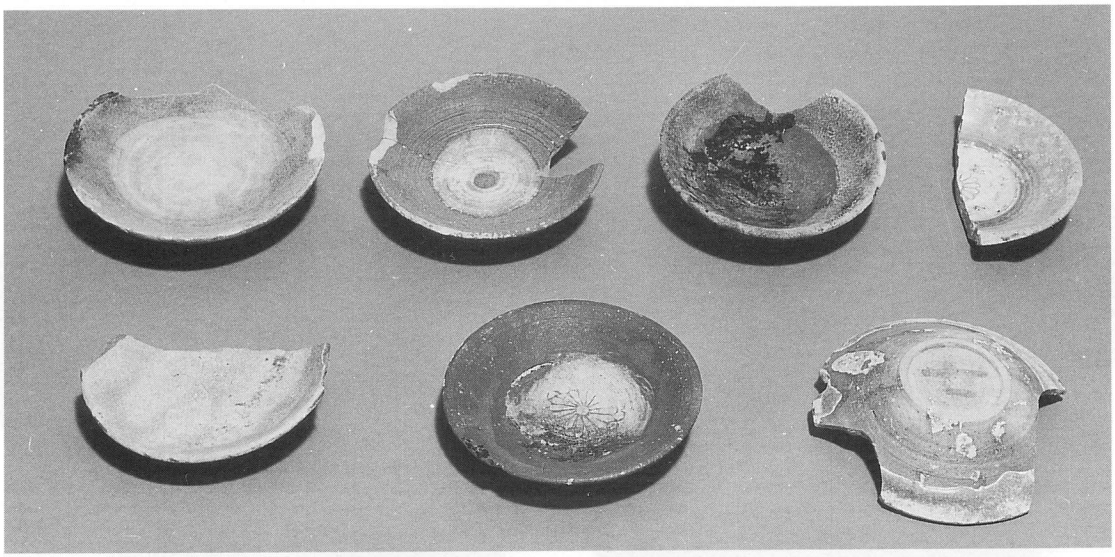
5.柱穴

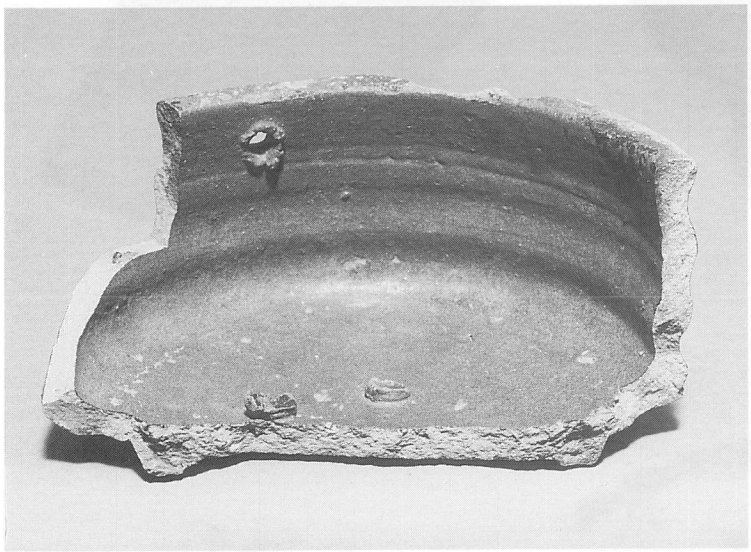


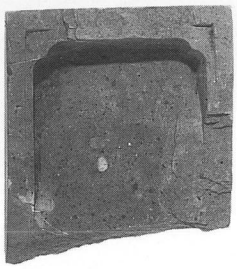
7.土坑群(北より)

清水堂A遺跡発掘調査

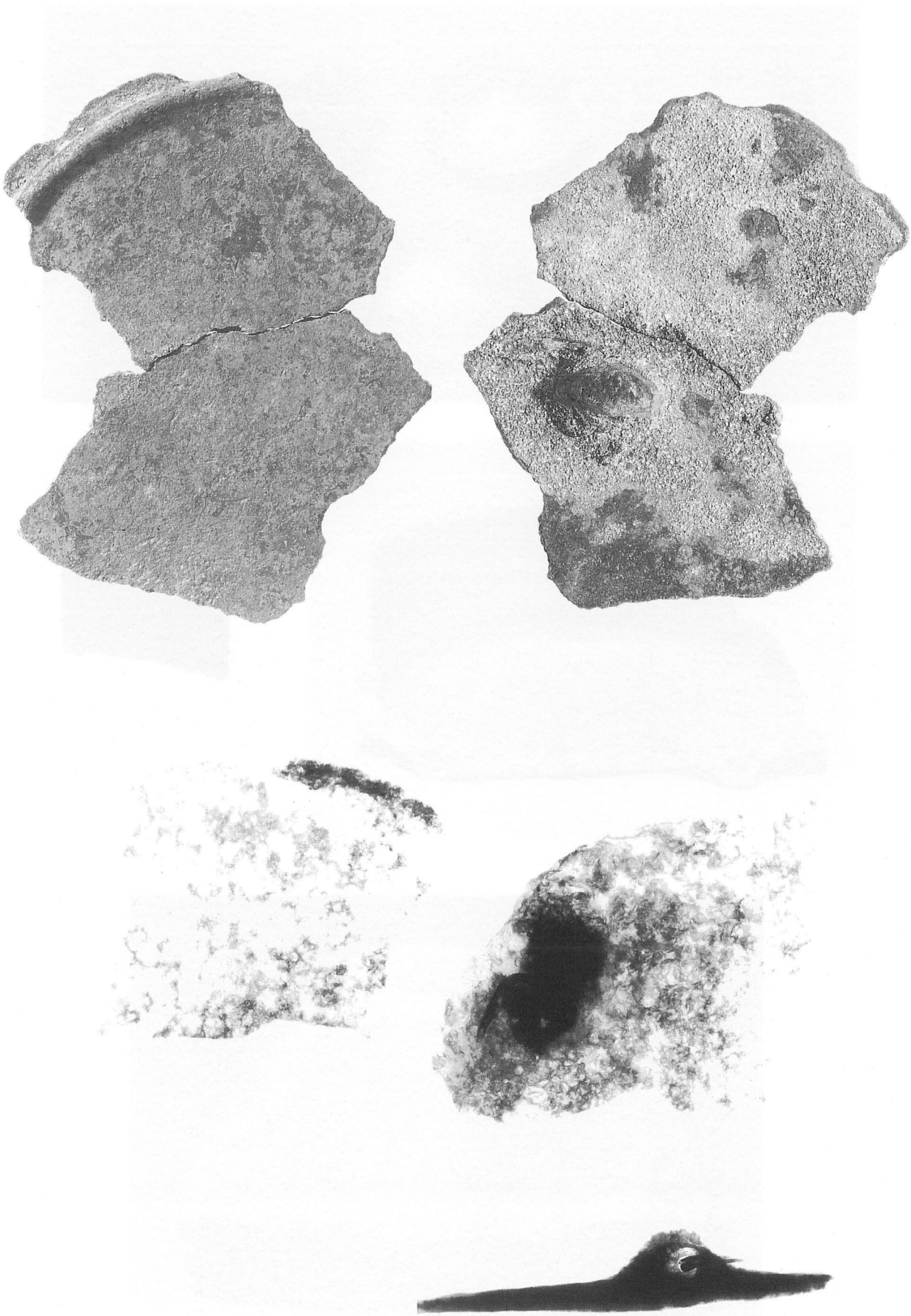
清水堂D遺跡試掘調査



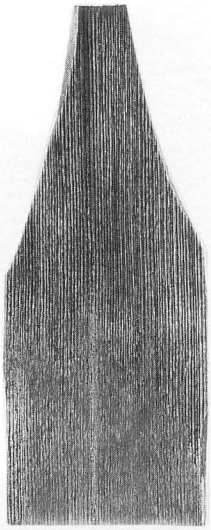




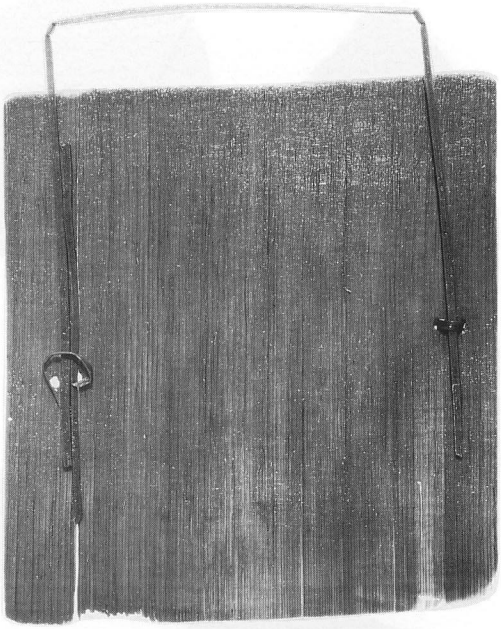
清水堂C遺跡発掘調査



清水堂C遺跡SE21出土鉄鏡



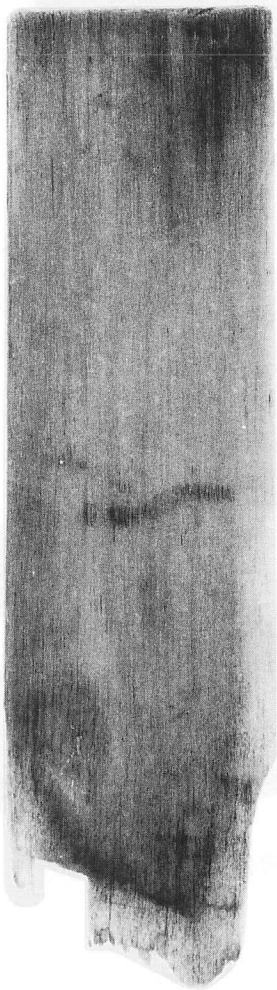
5



11

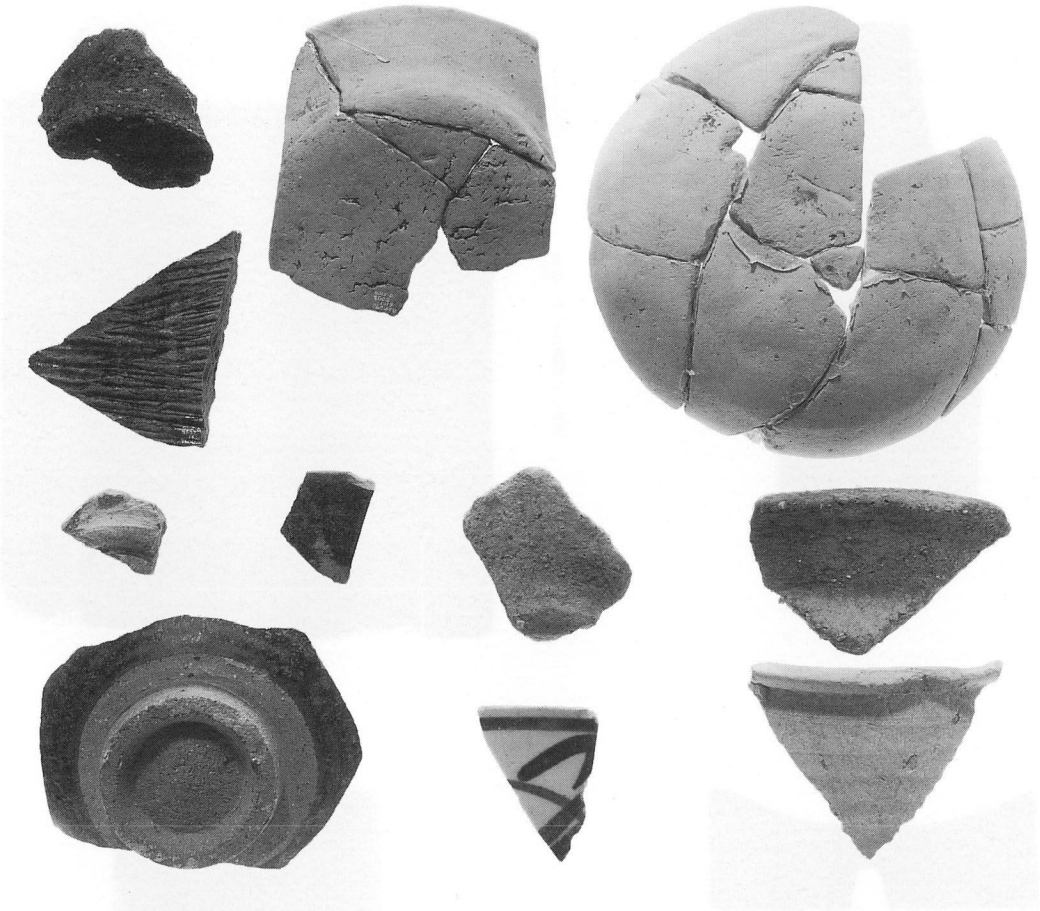
2

3



7

清水堂C遺跡出土木製品（スケールアウト）



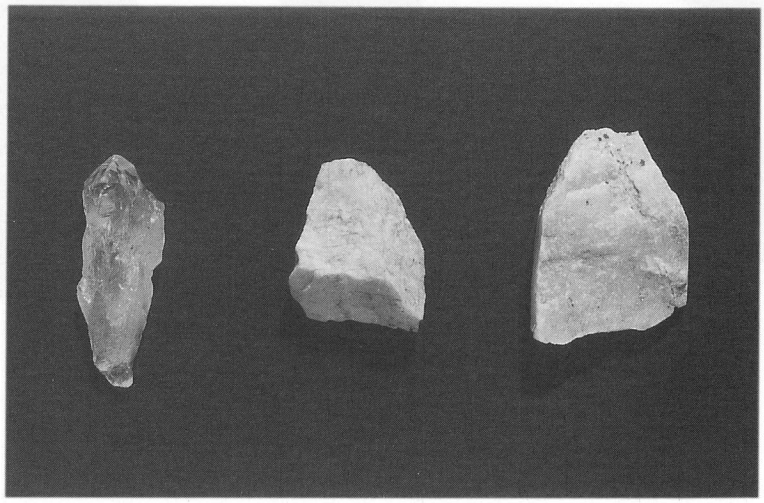
溝出土遺物

小穴出土遺物

土坑出土遺物

土坑出土遺物

SK26



清水堂D遺跡発掘調査

報告書抄録

書名	富山市水橋　清水堂A遺跡　清水堂C遺跡　清水堂B遺跡　清水堂D遺跡　清水堂小深田遺跡　清水堂宗平邸遺跡
シリーズ名	県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要
シリーズ番号	(1)
編著者名	鹿島昌也
編集機関	富山市教育委員会
所在地	〒930　富山県富山市新桜町7番38号　TEL0764-43-2138
発行年月日	西暦1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 道路番号	北緯 °′″	東径 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
しみずどう 清水堂A遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	241	36度 42分 44秒	137度 18分 47秒	19950508 ～ 19950721	発掘　200	県営ほ場整備事業
しみずどう 清水堂C遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	244	36度 42分 34秒	137度 18分 48秒	19950508 ～ 19950721	発掘　250	同　上
しみずどう 清水堂B遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	242	36度 42分 43秒	137度 18分 56秒	19951220 ～ 19960129	試掘5,000	同　上
しみずどう 清水堂D遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	245	36度 42分 34秒	137度 19分 06秒	19951220 ～ 19960120	試掘4,000 発掘　600	同　上
しみずどう こふかた 清水堂小深田遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	247	36度 42分 42秒	137度 19分 03秒	19951223 ～ 19960122	試掘4,000	同　上
しみずどう そうべいてい 清水堂宗平邸遺跡	とやましみずはししみずどう 富山市水橋清水堂	16201	246	36度 42分 34秒	137度 18分 59秒	19951223 ～ 19960120	発掘　50	同　上

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清水堂A遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	溝、土坑	石斧、須恵器、珠洲焼、青磁、越中瀬戸焼	集落の縁辺部
清水堂C遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	井戸、穴、溝	弥生土器、須恵器、緑釉陶器、土師質土器、越中瀬戸焼、越前焼、珠洲焼、青磁、鉄鏡、漆塗木製品、木簡、種子	井戸跡多数検出、中世～近世にかけての集落跡
清水堂B遺跡	古墳 集落跡	弥生、古墳、中世近世	周濠、穴、溝	弥生土器、土師器、須恵器、珠州焼	清水堂古墳の周濠検出、中世遺構の削平受ける
清水堂D遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	土坑、溝、小穴、掘立柱建物	弥生土器、土師器、珠州焼、近世陶磁器	弥生時代の集落跡
清水堂小深田遺跡	集落跡	中世、近世	溝	珠州焼、近世陶磁器	中～近世集落の縁辺部
清水堂宗平邸遺跡	集落跡	古代	溝、穴	土師器	古代の溝跡

調査参加者

県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業
（清水堂地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要（1）

富山市　水橋

清水堂A遺跡　清水堂C遺跡　清水堂B遺跡　清水堂D遺跡
清水堂小深田遺跡　清水堂宗平邸遺跡

編集・発行　富山市教育委員会
富山市新桜町7番38号
発　行　日　1996年3月29日